

私たちの荒川

令和元年12月26日



荒川上流河川事務所

1. 荒川の概要
2. 過去の出水
3. 荒川の改修経緯
4. 最近の話題

1. 荒川の概要

荒川流域の概要

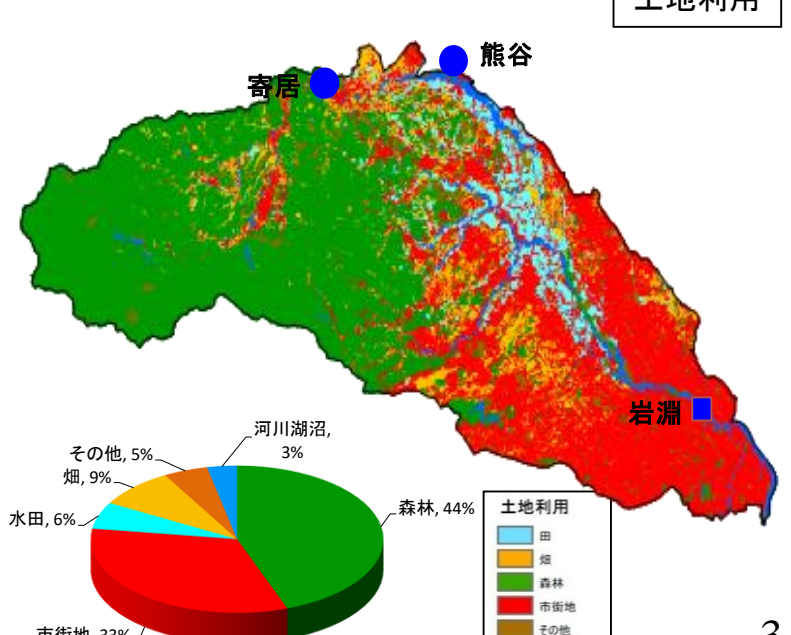
■荒川は、甲武信ヶ岳（標高2,475m）に源を発し、埼玉県中央部、東京都都市部を流下し、東京湾に注ぐ一級河川です。

■中流部から下流部にかけて市街地が広がり、特に下流部は人口・資産が集中した低平地であり、流域内には新幹線をはじめとするJRや私鉄各線、高速道路や国道など基幹交通網が整備されており、わが国の政治・経済の中核となる区域を流下しています。



流域の諸元	
◆流域面積	: 約2,940km ²
◆幹川流路延長	: 約173km
うち直轄管理区間延長	: 約96km
◆流域内人口	: 約980万人
出典:「H22.3河川現況調査」	

流域の国管理区間の殆どが市街地



荒川中流域の特徴

日本一の川幅

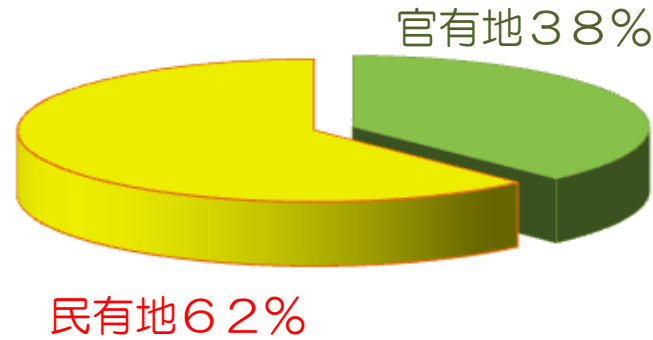


■川幅日本一

鴻巣市と吉見町にまたがる御成橋付近では川幅が2,537mあり、日本一の川幅を有しています。



高水敷の約6割は民有地

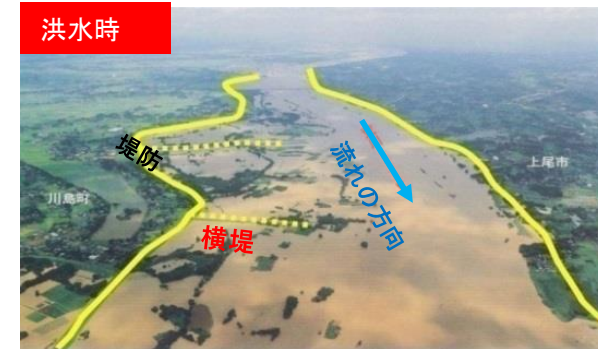


トピックス

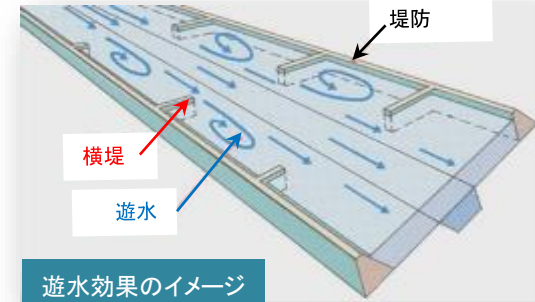
第12回埼玉県B級ご当地グルメ王決定戦で鴻巣市の川幅うどんが優勝しました。



横堤による遊水効果

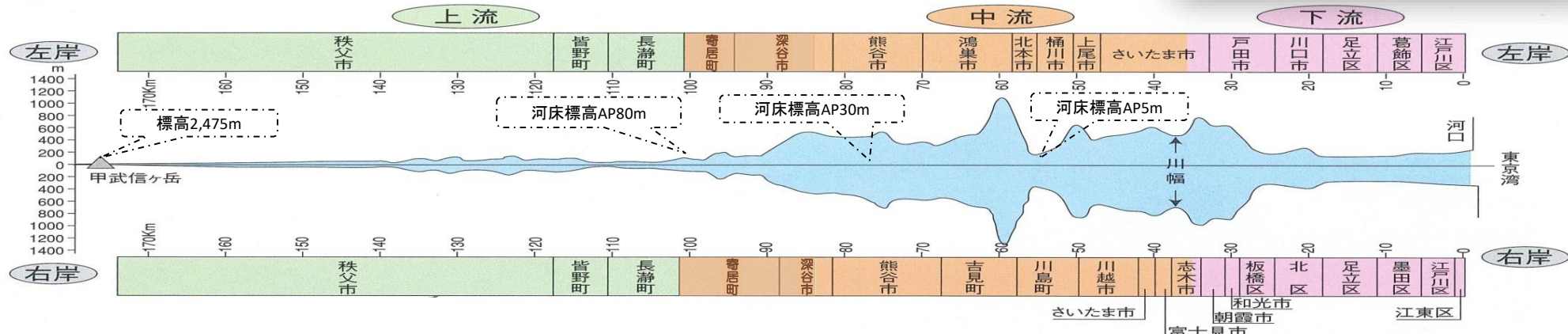


川島町付近 平成11年8月撮影



遊水効果のイメージ

●河口からの距離と川幅



荒川上流管内

荒川下流管内

荒川の特徴【広い高水敷】

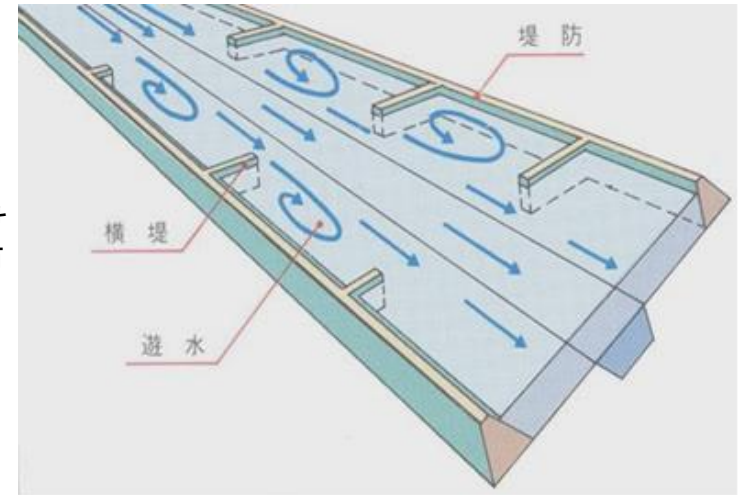
- 河川は、一般的に河口に向かって徐々に川幅を広がるが、荒川では中流部が広く、特に、河口より62k地点(鴻巣市と吉見町間)では、川幅が約2.5kmとなり、河口付近の川幅約0.75kmの3倍以上。
- 大正時代の治水対策の基本的な考え方、「従来の遊水機能を確保」、「蛇行した河道の直線化」、「堤防の整備」により、中流部は、**1.5km~2.5kmという広い川幅**が出現。
- この広い河川敷は、下流部の都市をはん濫から守るための遊水池としての機能を持っており、これも荒川の大きな特徴の一つ。



荒川の特徴【横堤】

土木遺産の「横堤(よこてい)」とは

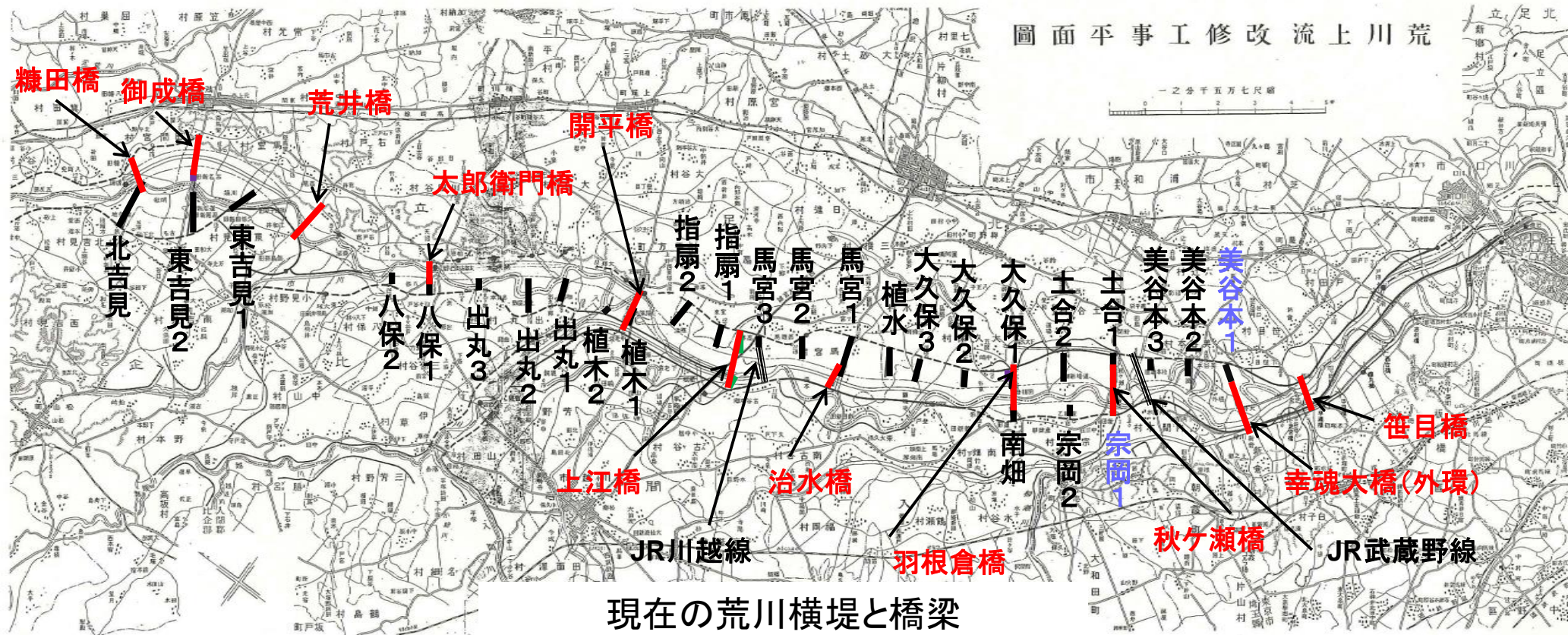
堤防から直角に川の流れる方向に張り出した堤防が「横堤」。
大正7年に着手した荒川上流部改修計画(大正9年に工事を開始し、37年の歳月をかけて昭和29年に完工しました。)では、糠田橋(鴻巣市-吉見町)付近から笹目橋(戸田市-板橋区)付近の間の川幅を広くとり(最大で2.5Km)、27本の横堤を築きました。
横堤は、洪水の勢いを緩和し、下流へ流れる洪水の水量を調節し少なくする等の遊水効果を高めることを目的に昭和初期に築かれました。
その歴史的土木施設としての高い価値を(社)土木学会から土木學會選奨土木遺産に認定。



平成19年9月台風第9号による洪水

荒川の特徴【横堤】

- 荒川上流改修の当初計画においては、左岸14箇所、右岸11箇所の計25箇所の横堤を計画。
- 昭和4年に入間川の合流部を下流に付け替える計画変更が行われているが、その際の計画においては、右岸に「植木1」、「植木2」の2箇所が追加され、左岸14箇所、右岸13箇所の計27箇所となっている。
- 現在は、荒川第一調節池建設時に「美谷本1」が本川左岸堤となった。また、「宗岡1」は現存していない。（※秋ヶ瀬橋架替時に撤去したと推察）
- **現存する横堤**は左岸13箇所、右岸12箇所の**計25箇所**。



現在の荒川横堤と橋梁

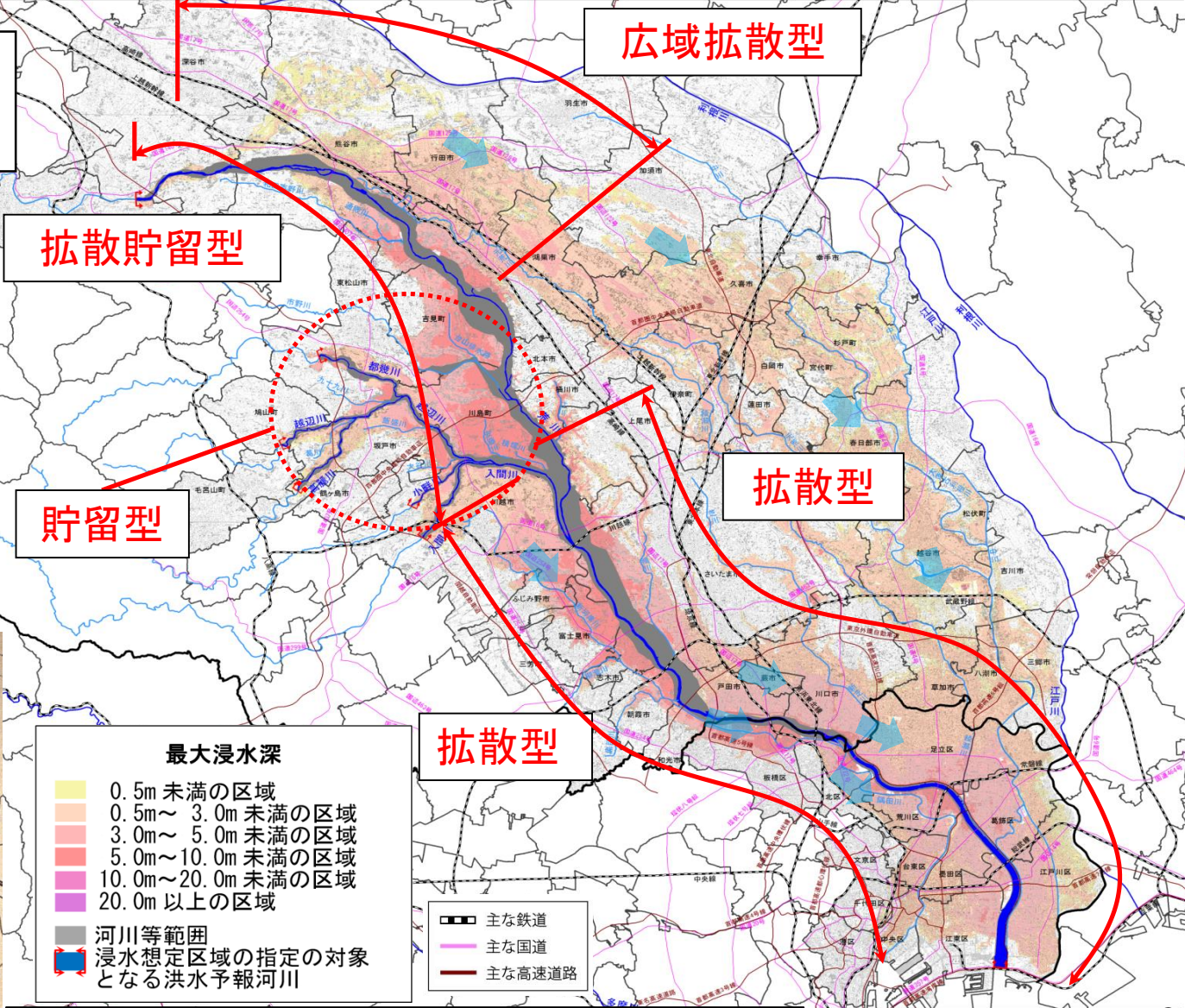
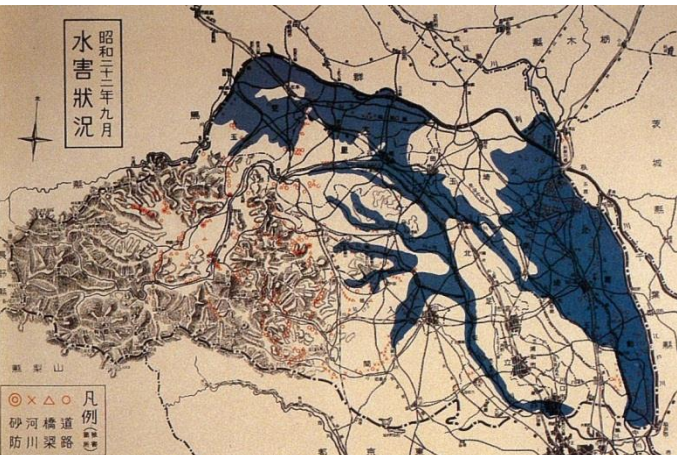
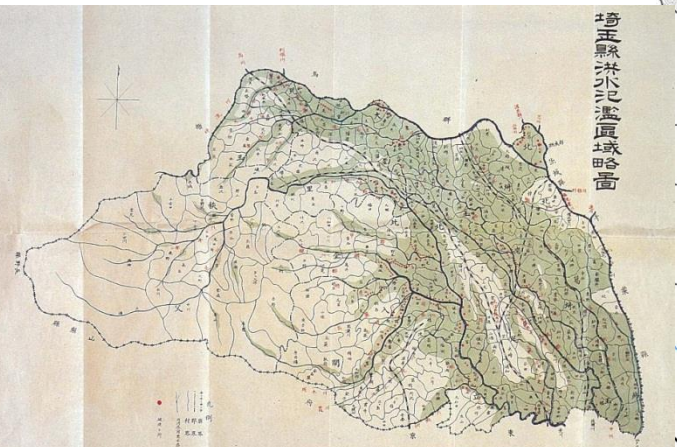
— 道路橋
 — 鉄道橋

荒川の特徴【洪水氾濫特性】

■洪水氾濫特性は、入間川合流点下流は「拡散型」であり、合流点上流は左岸が「広域拡散型」、右岸は「拡散貯留型」、それ以外は山付きや支川堤防による「貯留型」となっている。

水防法改正に伴い、想定し得る最大規模の降雨を前提とした荒川水系洪水浸水想定区域図について、H28.5に公表しました。

過去の氾濫



最大浸水深

- 0.5m 未満の区域
- 0.5m～ 3.0m 未満の区域
- 3.0m～ 5.0m 未満の区域
- 5.0m～10.0m 未満の区域
- 10.0m～20.0m 未満の区域
- 20.0m 以上の区域

河川等範囲
 浸水想定区域の指定の対象となる洪水予報河川

主な鉄道
 主な国道
 主な高速道路

荒川水系荒川及び入間川流域 洪水浸水想定区域図(想定最大規模)

荒川の状況①



甲武信ヶ岳山頂

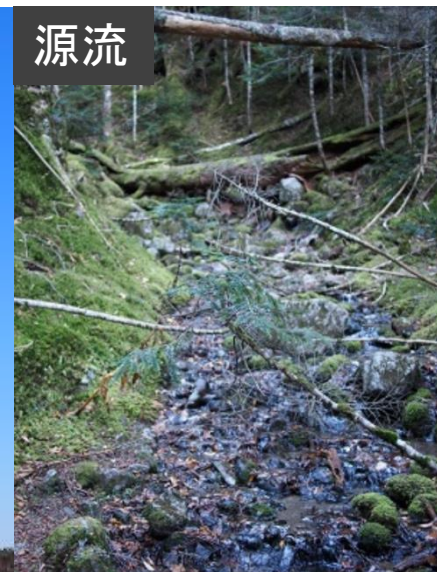
富士川流域(甲州)↓

信濃川流域(信州)↓

甲武信ヶ岳
(2475m)
↓

荒川流域(武州)↓

源流(甲武信ヶ岳)



源流

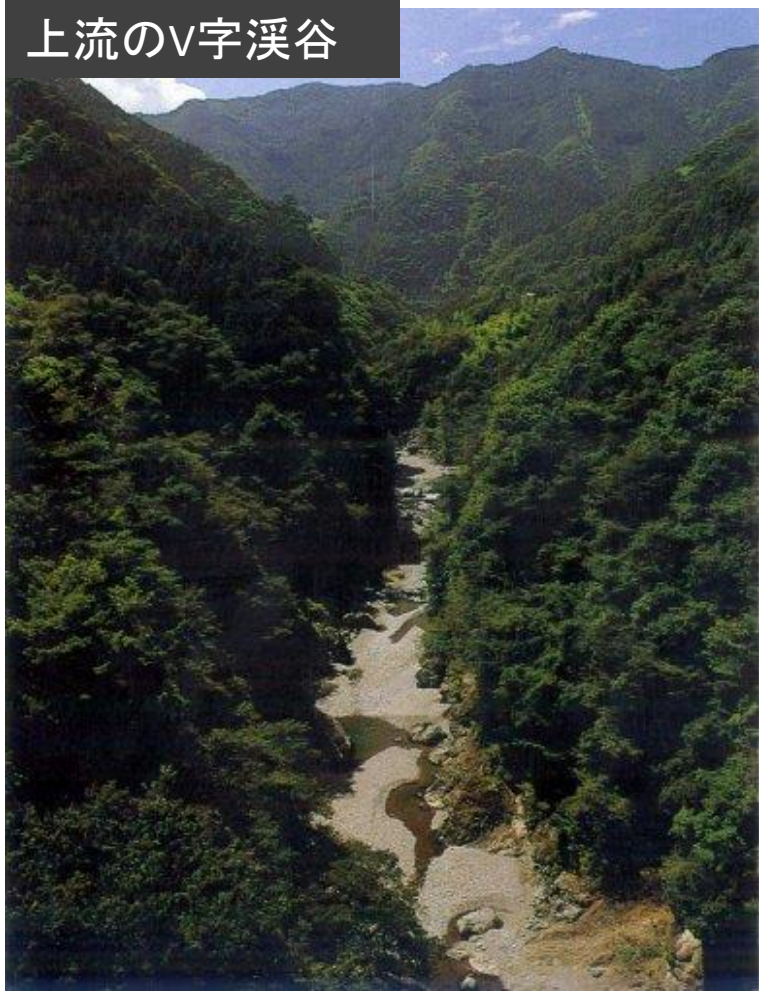


源流の碑

荒川の状況②

- 上流部では、秩父山地の甲武信ヶ岳にその源を発し、寄居までは山間部を流れており、川の勾配は急で流れが速く、川底や岸を削り取って深いV字の谷が形成され、川幅は狭く川原はほとんど見られません。
- 大きな石や岩が露出しており、長瀨の岩畳などの景観は国指定の天然記念物に指定され、重要な観光資源となっています。

上流のV字溪谷



長瀨付近



長瀨ライン下り



荒川の状況③



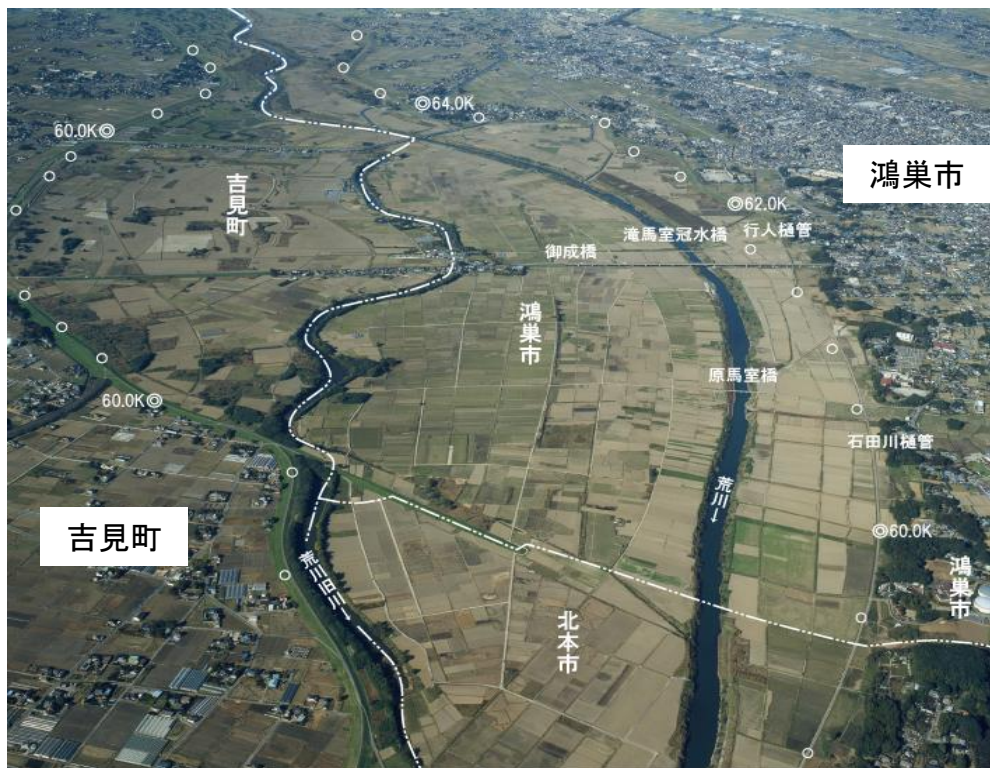
82km付近



86km付近

埼玉県 明戸 六堰

荒川の状況④



60km付近



72km付近

埼玉県 広大な中流部の河川敷

荒川の状況⑤



30km付近



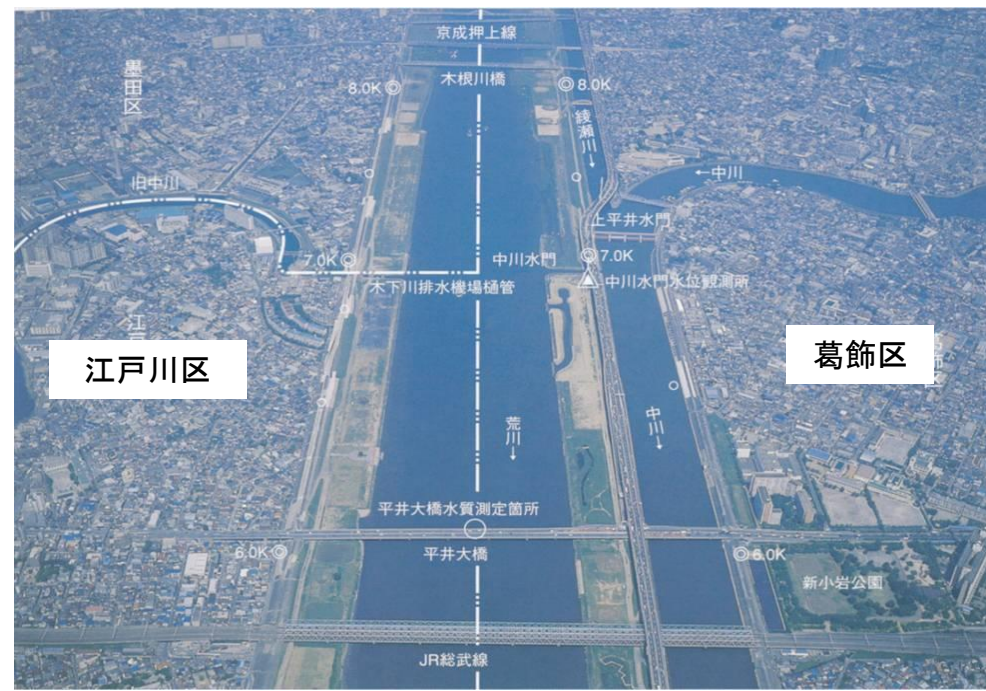
40km付近

埼玉県 荒川第一調節池 さいたま築堤

荒川の状況⑥



河口付近



6km付近

東京都 荒川放水路

2.過去の出水

寛保2年(1742年)の大洪水

■1742年(寛保2年)の大洪水は「寛保二年江戸洪水」とも呼ばれ、旧暦7月から8月にかけて日本本州中央部を襲った大水害であり、洪水と高潮により江戸が甚大な被害を被りました。この洪水については、埼玉県内においても数多くの古文書が残され、寛保2年の洪水がいかに大規模であったかを物語っています。

■よく知られる「樋口村寛保2年洪水位磨崖標」(長瀬町野上下郷)は、この時の水位を「水」の字で岩壁に示したもので、現在の平水面から20mの高さにあります。この洪水では荒川、利根川が氾濫し、関東一円が浸水しました。浅草で水深7尺(約2.1m)、亀戸で12、13尺(約3.7m)、死者3,900余人と伝えられています。

埼玉県長瀬町に残る磨崖標(まがいひょう)。「水」の字が刻まれています。

寛保2年の大洪水の記録

水位磨崖標 水深60尺
(崖の水位痕跡)



荒川における過去の大出水

過去の主要な災害

明治43年8月 台風

- ・荒川改修工事の直接的な動機となった未曾有の大洪水
- ・荒川流域内の堤防決壊は178箇所、延長約10km
- ・寛保2年以来の大水害であり、東京の下町のほとんどが泥の海となりました。



ほんじよみなわり
本所南割（現在の錦糸町）付近の状況

昭和22年9月 カスリーン台風

- ・荒川では本川熊谷市久下地先及び入間川の各所で堤防決壊しました。
- ・戦後最大の被害が発生しました。



ふるやむら
古谷村（現在の川越市）の浸水状況

昭和57年9月 台風第18号

- ・人口増加の著しい、入間川、新河岸川流域で被害が発生しました。



新河岸川支川柳瀬川の浸水状況

平成11年8月 熱帯低気圧

- ・動きの遅い熱帯低気圧により発達した雨雲により、8月13日夜から14日夜にかけて断続的な豪雨となり、入間市等の支川流域に浸水被害をもたらしました。



入間川、小畔川、越辺川合流点付近



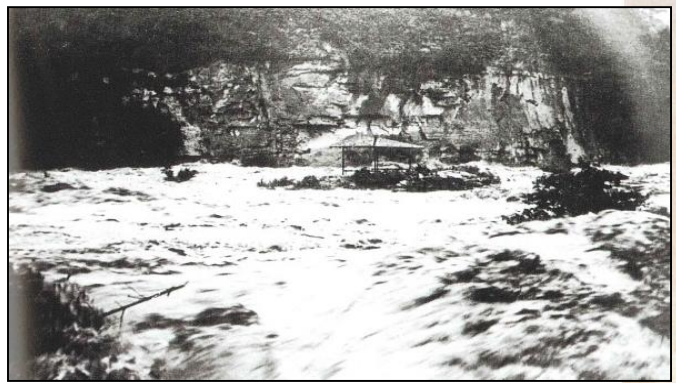
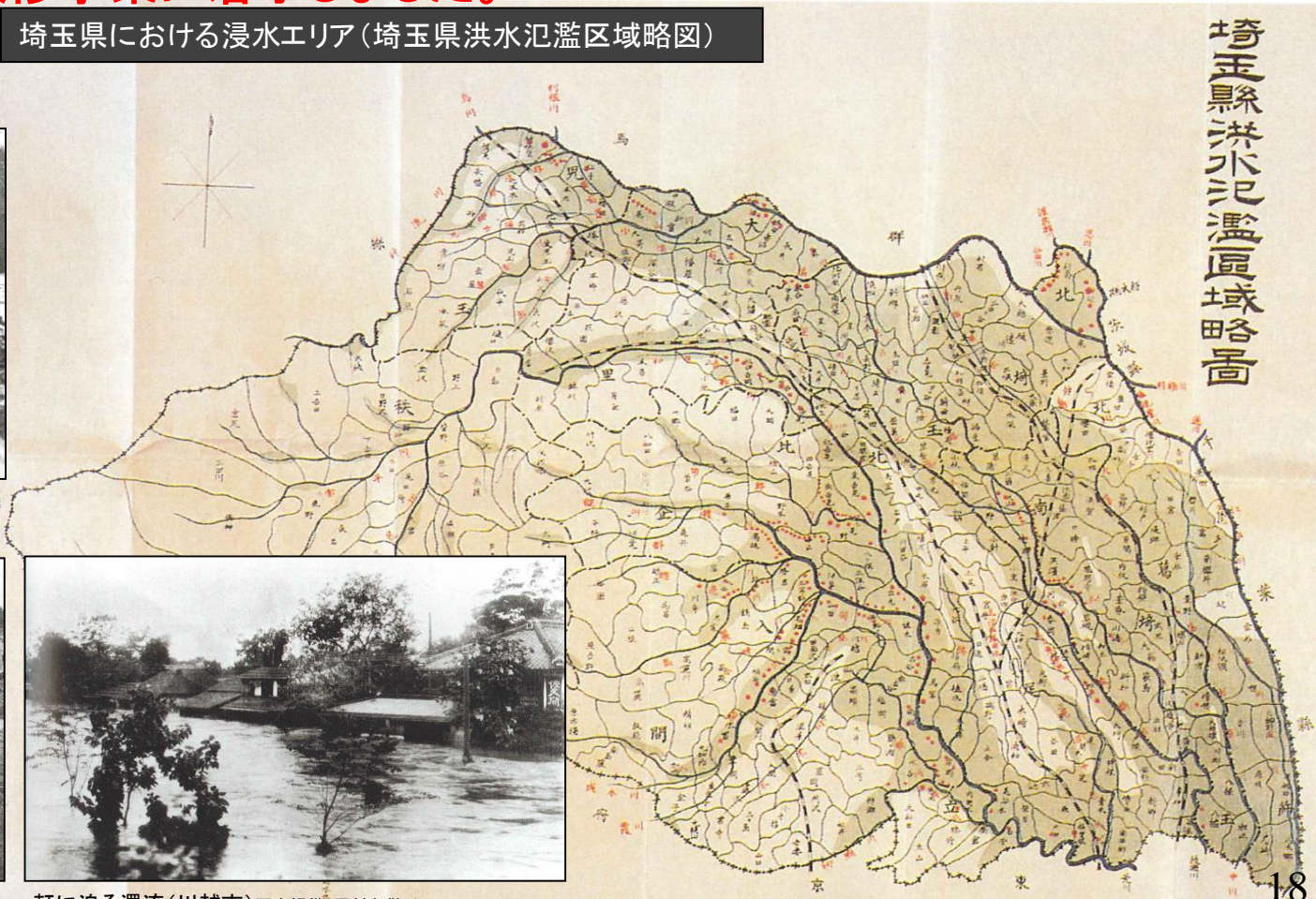
発生年月	主な被災市町村
明治43年(1910)8月8日 (台風)	埼玉県川越市、東京都荒川区、墨田区、江東区など
昭和22年(1947)9月13日 (カスリーン台風)	埼玉県熊谷市、川越市、さいたま市など
昭和33年(1958)9月25日 (狩野川台風)	埼玉県川越市、さいたま市など
昭和57年(1982)9月10日 (台風第18号)	埼玉県さいたま市、東京都千代田区、新宿区など
平成11年(1999)8月14日 (熱帯低気圧)	埼玉県川越市、飯能市、入間市、坂戸市など

明治43年の大洪水

明治43年(1910)8月8日、台風による洪水で、堤防決壊箇所178か所、死者・行方不明者399人、家屋全・半壊及び流出 18,147戸、床上・床下浸水262,595戸と甚大な被害となりました。

国による荒川直轄改修の契機となり、下流部では1911年(明治44年)、中流部では1918年(大正7年)に改修事業に着手しました。

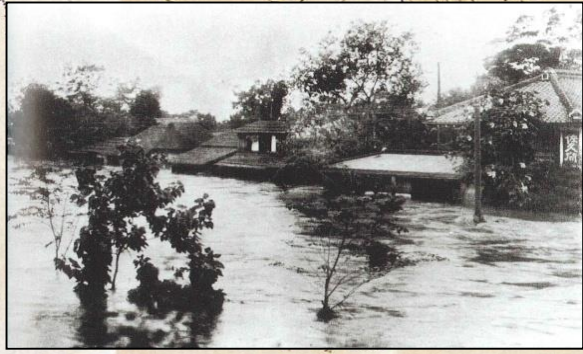
埼玉県における浸水エリア(埼玉県洪水氾濫区域略図)



岩畳を覆う激流(長瀬町) 出典:「写真集荒川」埼玉県



堤防決壊の光景(熊谷市村岡付近) 出典:「さいたま川の博物館」埼玉県



軒に迫る濁流(川越市) 写真提供:岡村久敬氏

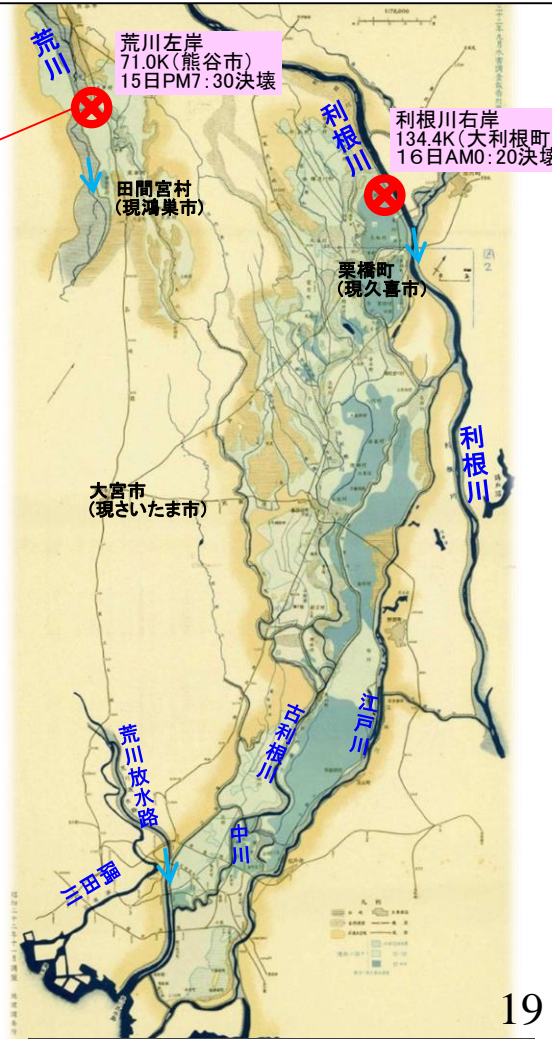
昭和22年9月洪水(カスリーン台風)

- 昭和22年洪水のカスリーン台風では、累加雨量は秩父観測所で600mm以上、名栗観測所で500mm以上を記録し、降雨量としては戦後最大を記録しました。
- 荒川では熊谷市久下等の複数地点で決壊し、利根川の被害と合わせて死者・行方不明者数109人、全半壊・流出3,428戸、床上浸水124,896戸、床下浸水79,814戸の戦後最大となる被害が発生しました。

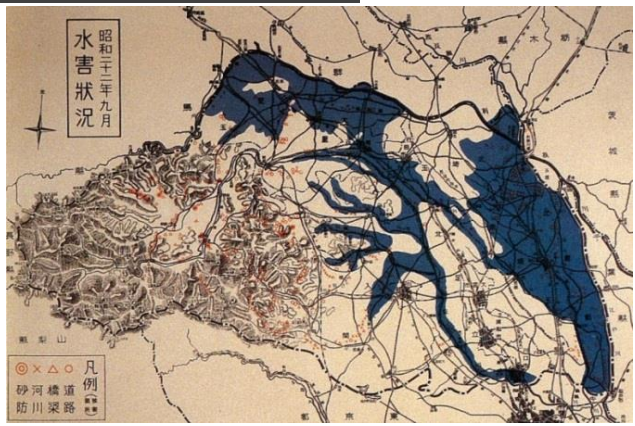
「昭和22年9月洪水 航空写真」



久下決壊の碑



カスリーン台風氾濫区域図



昭和22年9月出水被害状況

流量	11,500[m3/sec]	
死者・行方不明者	109人	
家屋全・半壊及び流出戸数	3,428戸	
浸水家屋戸数	床上浸水	79,814戸
	床下浸水	124,896戸

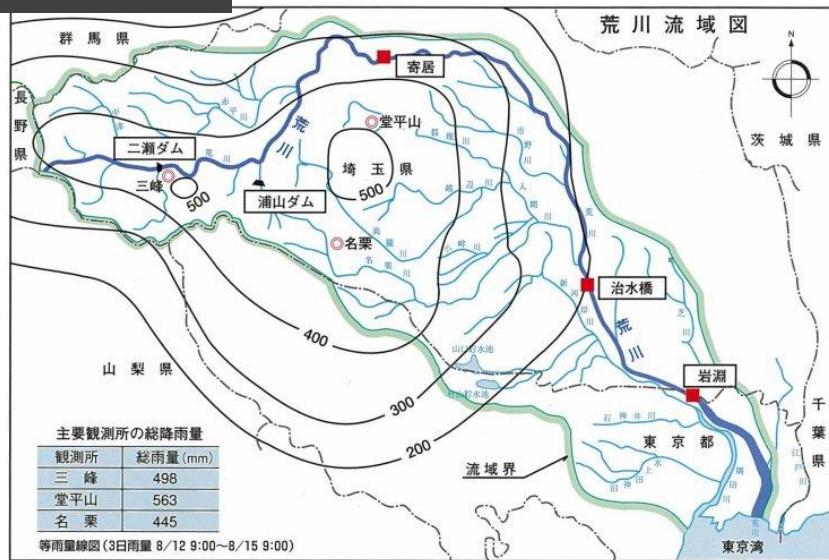
利根川筋の被害を含む
 ※ 浸水家屋戸数
 埼玉県の気象百年、東京市史稿
 東京都水害誌、東京都水防計画(資料編)を元に整理

昭和22年 カスリーン台風の氾濫区域図 出典: 埼玉県水害誌

カスリーン台風災害状況図 出典: 国土地理院

平成11年8月(熱帯低気圧)洪水

雨量分布図



H11年8月12日～8月15日(3日雨量)



坂戸市横沼地区



坂戸市赤尾下地区

入間川の三川合流点付近



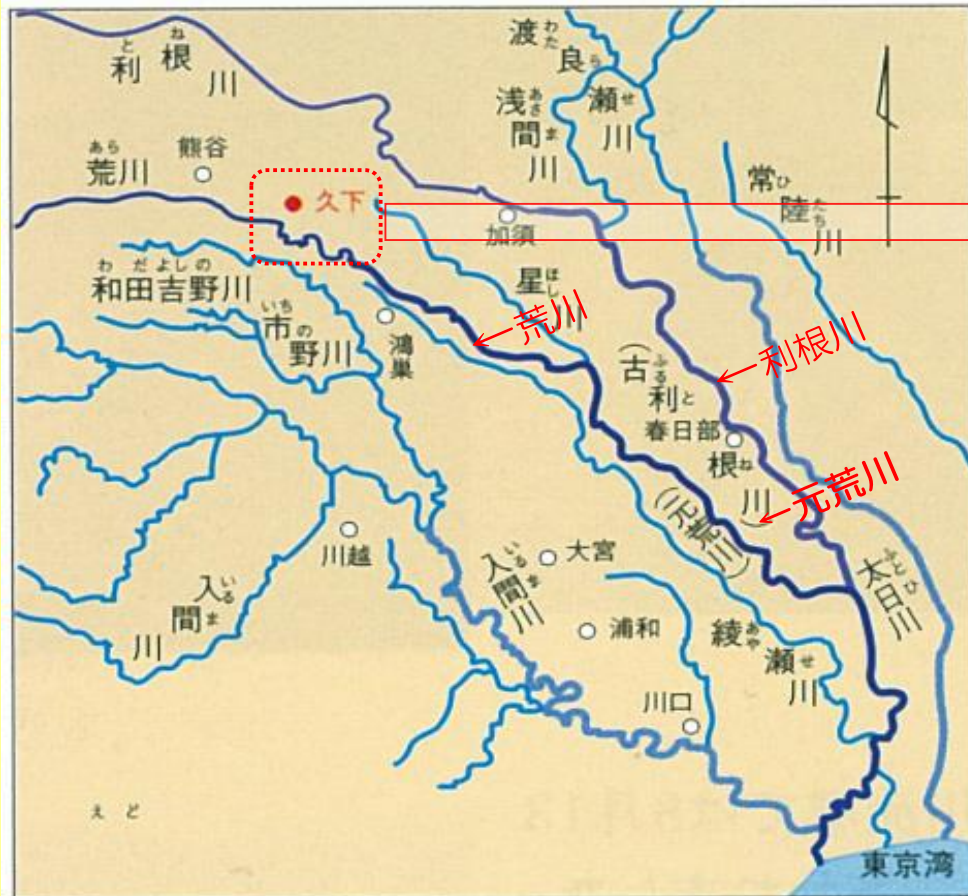
荒川第一調節池



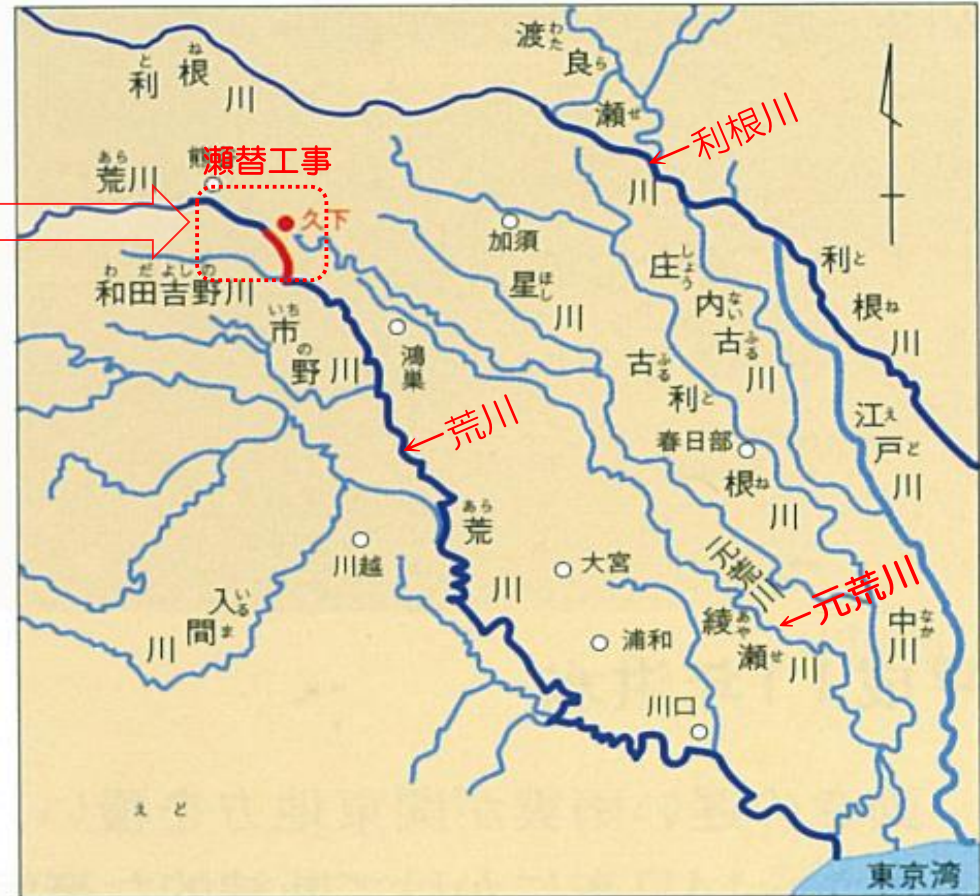
3. 荒川の改修経緯

荒川流路の変遷

荒川は、むかし利根川に合流して東京湾に流れていました!



荒川は、東京湾に流れ込んでいた利根川の支川で、現在の元荒川筋を流れていました。

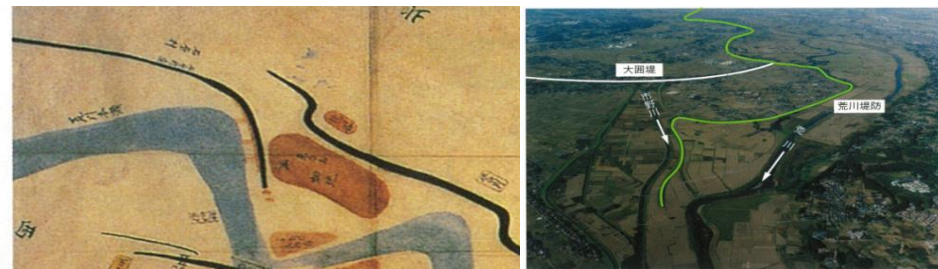


寛永6年(1629年)、伊奈忠治により荒川を利根川から分離する瀬替工事が行われました。「荒川の西遷」と呼ばれ、現在の荒川の流路が形つくられました。

江戸時代の治水

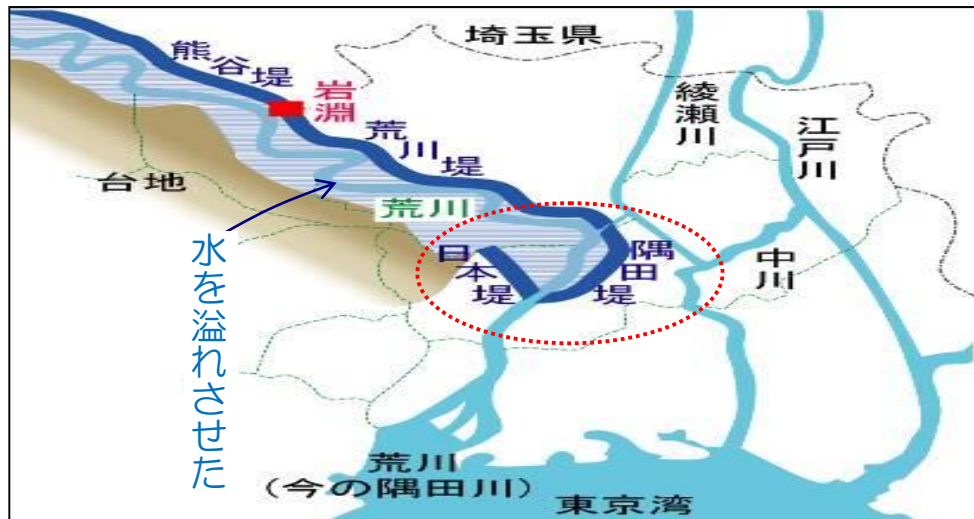


大田堤の整備 <荒川上流部>



市野川(左)、荒川(右)の合流点に残る古見領大田堤

日本堤と隅田堤の整備 <荒川下流部>



荒川の洪水が江戸の市街地に流入しないよう、両岸に日本堤、隅田堤をYの字に整備し、上流で洪水を溢させました。



水害に備えて集落を輪のように囲む大田堤を整備
絵図は江戸時代に描かれたもの(現 埼玉県熊谷市吉見町、大里村)

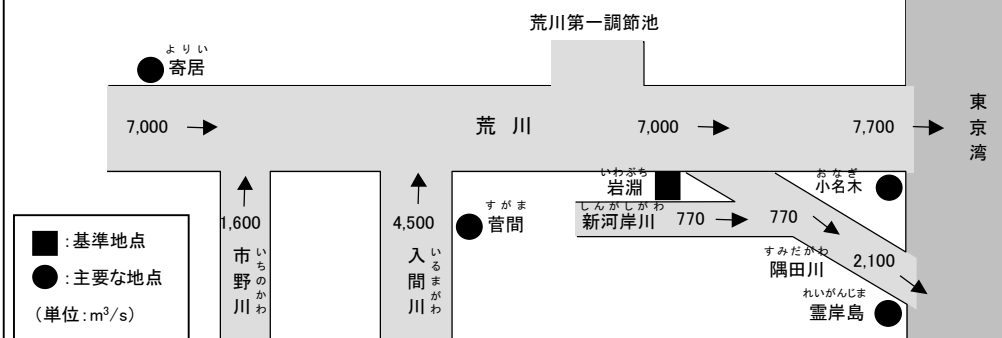
荒川の改修経緯(主な改修計画)

- 明治43年の大水害を契機として、明治44年に「荒川改修計画」を策定し荒川河川改修に着手。
- 昭和40年に工事実施基本計画を策定し、昭和48年に改定。
- 平成9年の河川法改正を受け、平成19年に荒川水系河川整備基本方針、平成28年に荒川水系河川整備計画を策定。

河川改修の経緯

明治	■ 明治40年8月	台風による被災
	■ 明治43年8月	台風による被災
	■ 明治44年	荒川改修計画の策定 荒川放水路事業に着手
大正	■ 大正7年	荒川上流改修計画の策定
昭和	■ 昭和5年	荒川放水路完成
	■ 昭和22年9月	カスリーン台風による被災
	■ 昭和33年9月	狩野川台風による被災
	■ 昭和36年12月	二瀬ダム完成
	■ 昭和39年	新河川法制定
	■ 昭和40年	荒川水系工事実施基本計画の策定
	■ 昭和48年	荒川水系工事実施基本計画の改定 基本高水のピーク流量：14,800m ³ /s(岩淵)、計画高水流量：7,000m ³ /s(岩淵)
	■ 昭和57年9月	台風18号による被災
平成	■ 平成9年	河川法改正
	■ 平成11年4月	浦山ダム完成
	■ 平成11年8月	熱帯低気圧による被災
	■ 平成16年	荒川第一調節池完成
	■ 平成19年3月	荒川水系河川整備基本方針の策定 基本高水のピーク流量：14,800m ³ /s(岩淵)、計画高水流量：7,000m ³ /s(岩淵)
	■ 平成23年3月	滝沢ダム完成
■ 平成28年3月	荒川水系河川整備計画の策定	

荒川水系河川整備基本方針



※河川整備基本方針は、長期的な観点から、国土全体のバランスを考慮し、基本高水、計画高水流量配分等、抽象的な事項を科学的・客観的に定めるものであります。このため専門的知識を有する学識経験者を主たる構成員とする社会資本整備審議会河川分科会の意見を聴いて、国土交通大臣が定めることとしています。

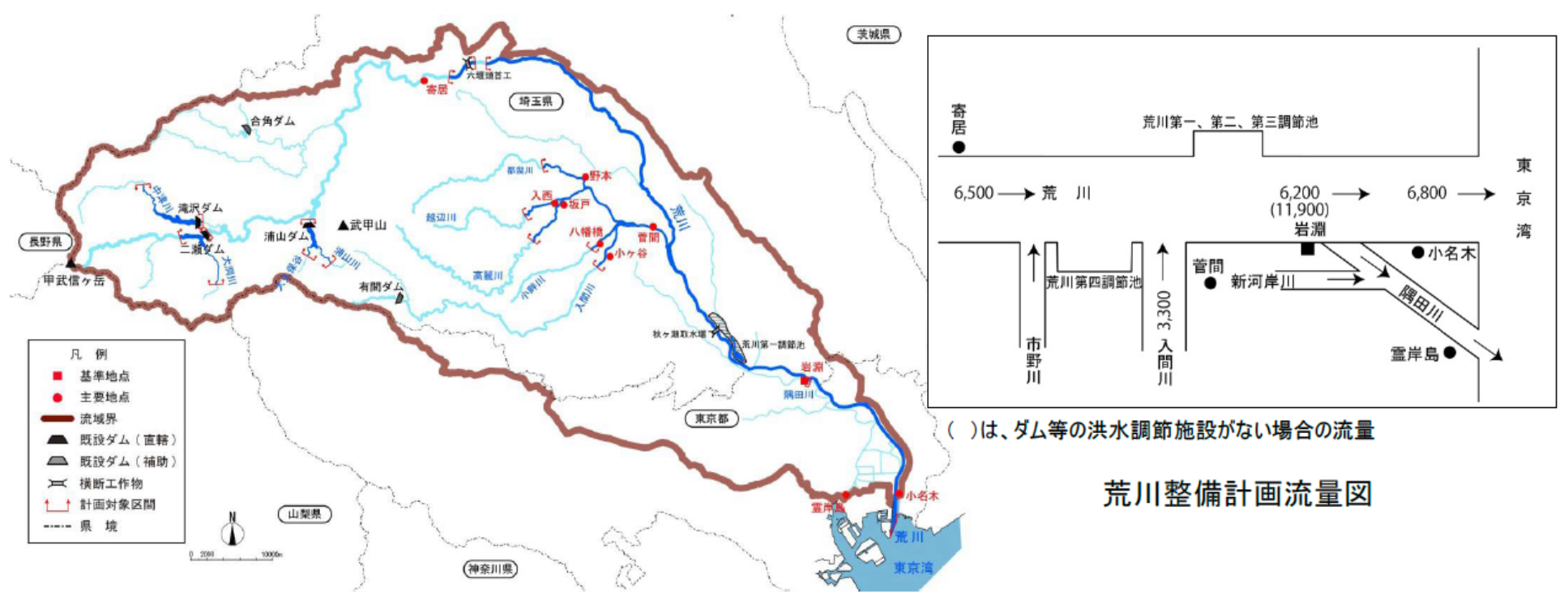
荒川水系河川整備計画の目標

荒川本川は、戦後最大洪水である昭和22年9月洪水(カスリーン台風)と同規模の洪水が発生しても災害の発生を防止を図ります。

支川入間川については、近年の洪水で大規模な浸水被害をもたらした平成11年8月洪水が再び発生しても災害の発生を防止を図ります。

荒川水系河川整備計画【大臣管理区間】(平成29年3月策定の概要①)

- ◆ 河川整備計画の対象期間は概ね30年間
- ◆ 戦後最大洪水(昭和22年9月カスリーン台風)と同規模の洪水による災害の発生を防止
- ◆ 伊勢湾台風と同規模の台風が東京湾に最も被害をもたらすコースを進んだ場合に発生すると想定される高潮による災害の発生を防止
- ◆ 計画規模を上回る洪水や整備途上において施設能力を上回る洪水等が発生した場合においても、人命・資産・社会経済の被害をできる限り軽減
- ◆ 必要な対策を実施することにより地震、津波による災害の発生を防止または軽減



河川整備計画対象区間

荒川水系河川整備計画【大臣管理区間】(平成29年3月策定の概要②)

■ 洪水を安全に流下させるための対策

堤防の整備, 河道掘削, 橋梁架替・橋梁部周辺対策
洪水調節容量の確保

■ 浸透・侵食対策

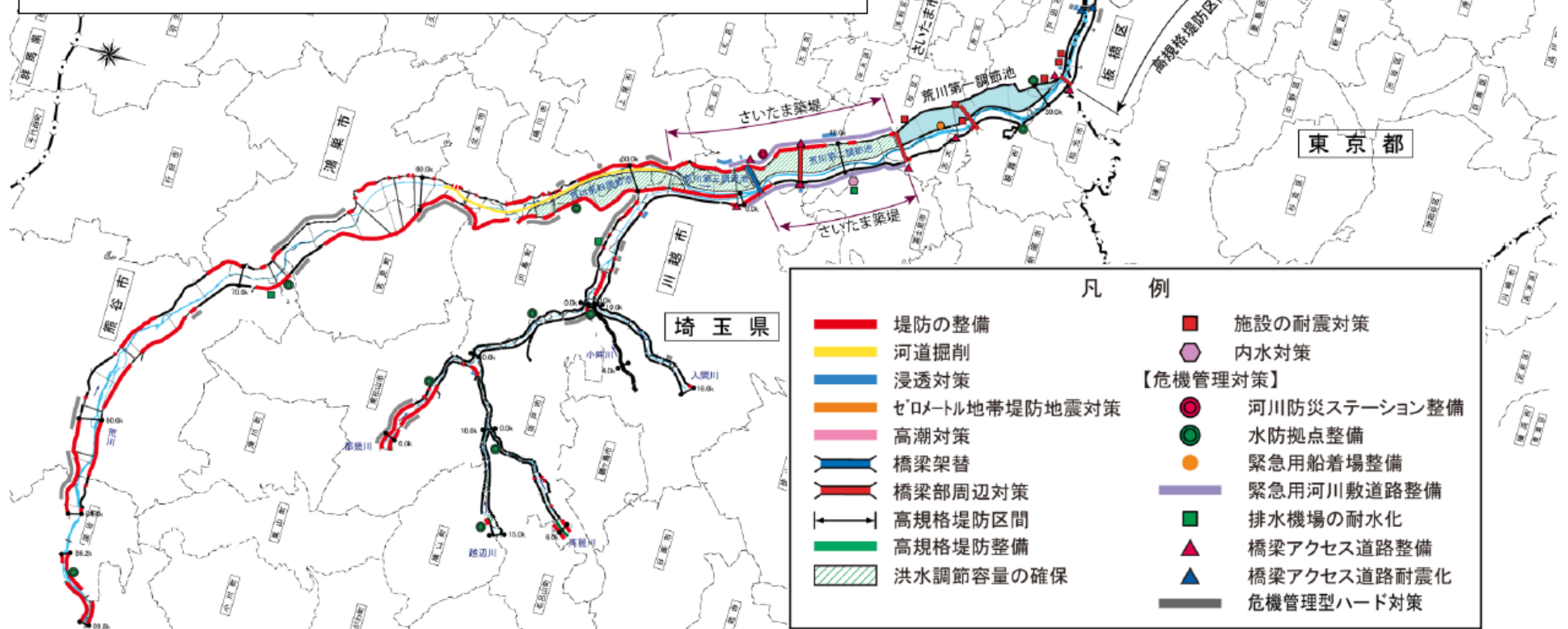
■ 高潮対策

■ 超過洪水対策

■ 内水対策

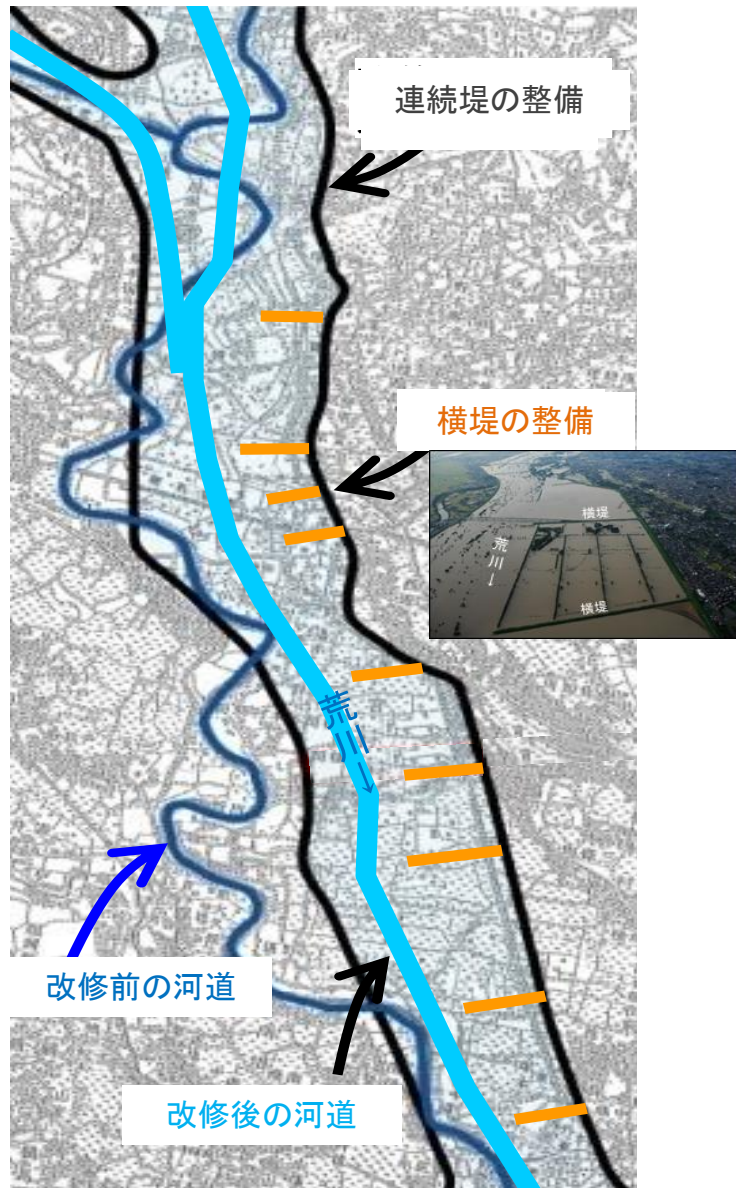
■ 地震・津波遡上対策

■ 危機管理対策

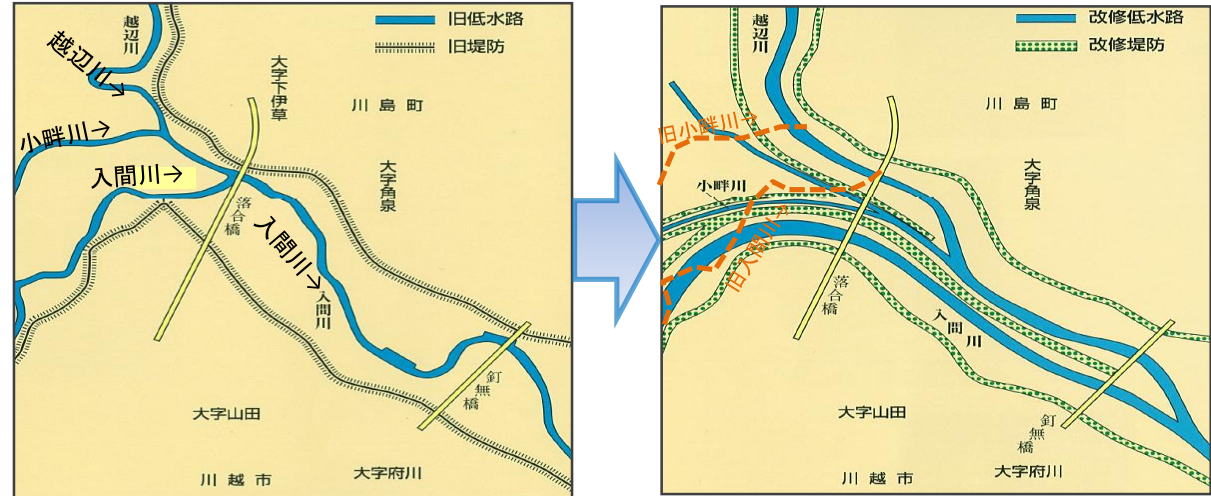


荒川の改修経緯（明治44年～昭和29年）

河道の直線化・横堤の整備



入間川筋の三川合流工事



荒川放水路の開削



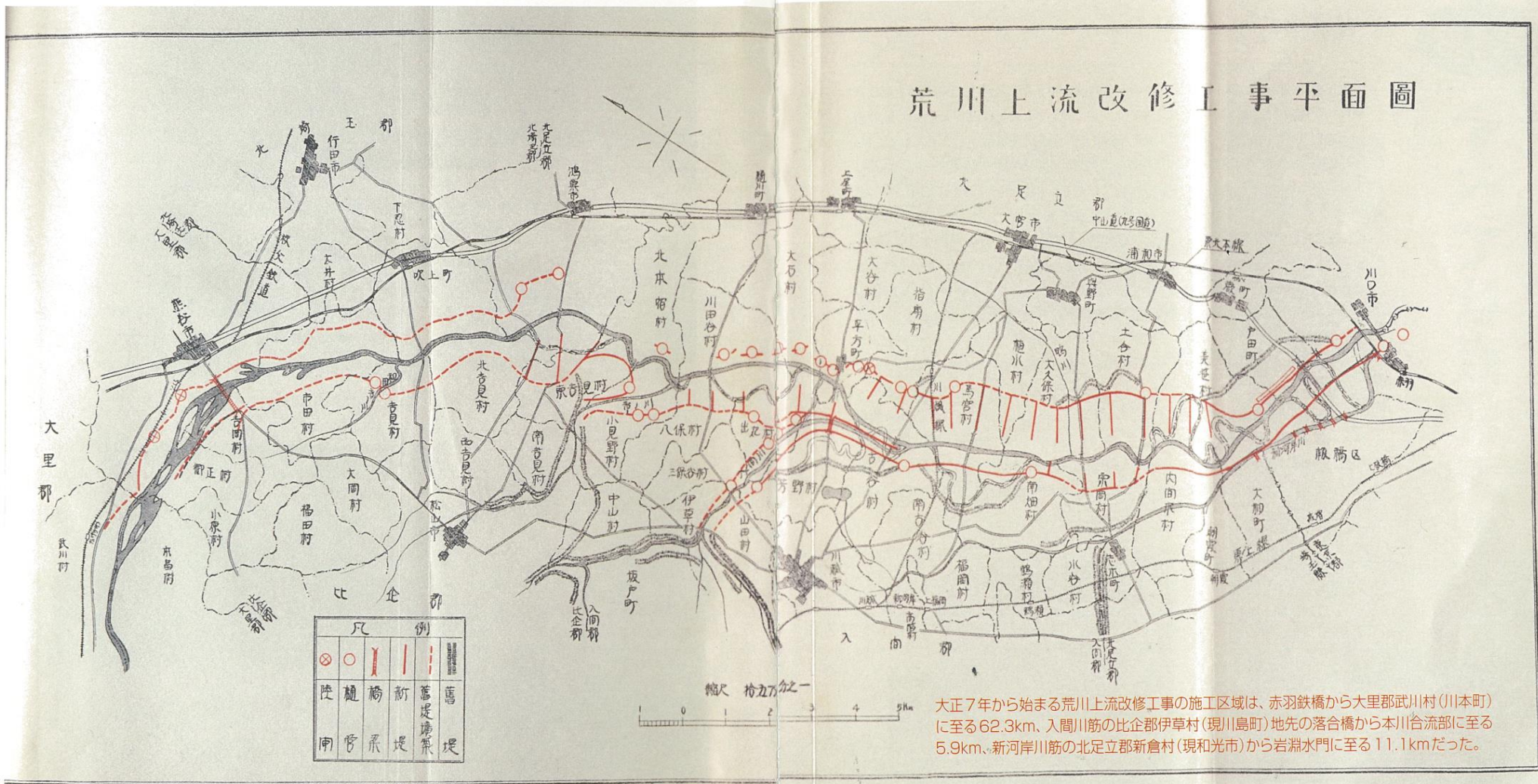
人力や馬を使って河岸部を平らに施工



蒸気掘削機を使い水路を掘削

荒川上流部改修工事

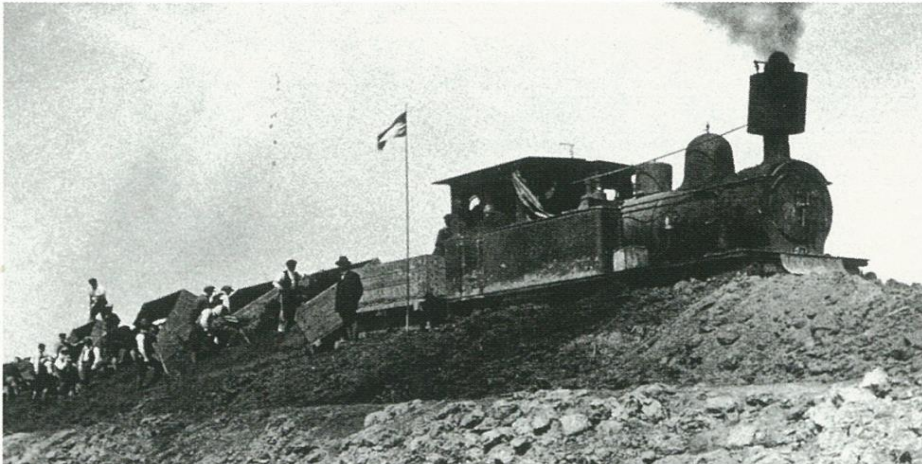
大正7年・荒川上流改修工事平面図



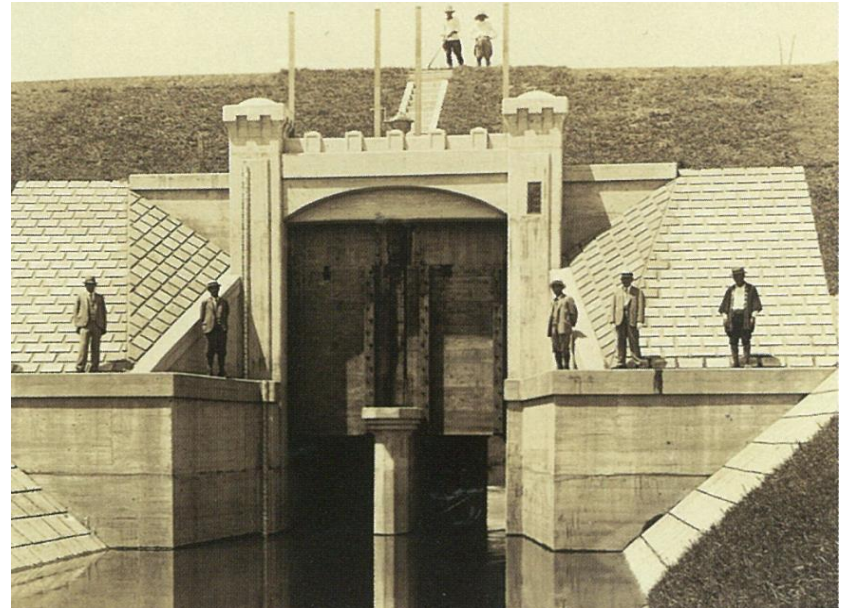
荒川上流部改修工事



荒川改修工事（現 埼玉県さいたま市馬宮付近）
掘削工事と併せて築堤が行われ、工事には蒸気機関車や馬車・トロッコを使用している様子が見えます。写真は、大正10年頃。



荒川改修工事（現 埼玉県さいたま市馬宮付近）
蒸気機関車による土運搬の様子。土の運搬には3m³土運車を用いられ20～23台編成で運行されました。



南畑樋管工事（現 埼玉県富士見市南畑付近）
昭和11年に南畑樋管が完成。
築堤工事に併せてこの時期多くの樋管が完成しています。



吹上水制護岸（現 埼玉県鴻巣市吹上付近）
写真は昭和10年代頃。

荒川の改修経緯（昭和29年～昭和47年）

二瀬ダムの建設



支川上流部の改修（築堤・河道掘削・護岸）



高麗川の堤防改修工事



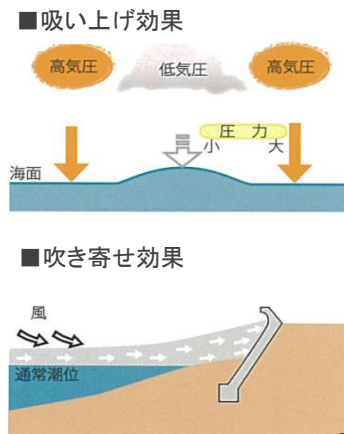
護岸根固工事の様子
粗朶沈床設置作業)

高潮堤防整備



高潮対策施設整備状況
(資料:「高潮からまもる」等より作成)

<高潮の発生要因>



荒川の改修経緯（昭和48年～平成18年）

浦山ダム建設



荒川第一調節池

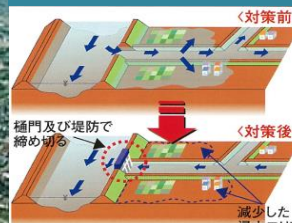


支川緊急対策事業



平成11年8月出水時の様子

支川合流部の対策

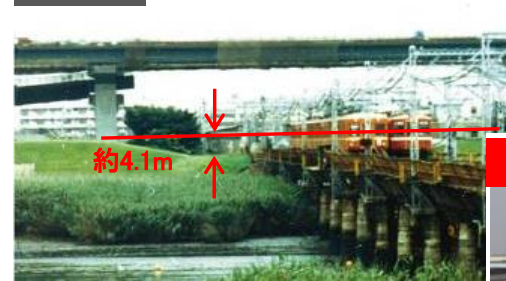


入間川の堤防整備



京成押上線橋梁架替

架替前



周辺の堤防より約4.1m低かった旧橋

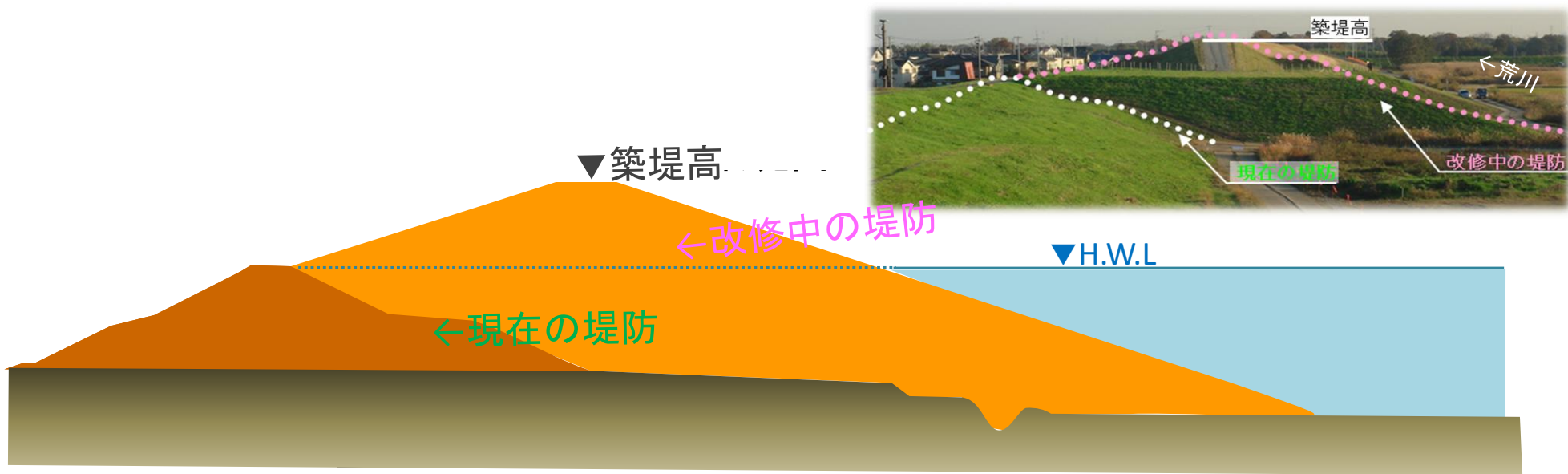
架替後



旧橋より約4.1m高くなった新橋

荒川の改修経緯(平成19年～)

荒川本川 堤防整備(さいたま築堤)

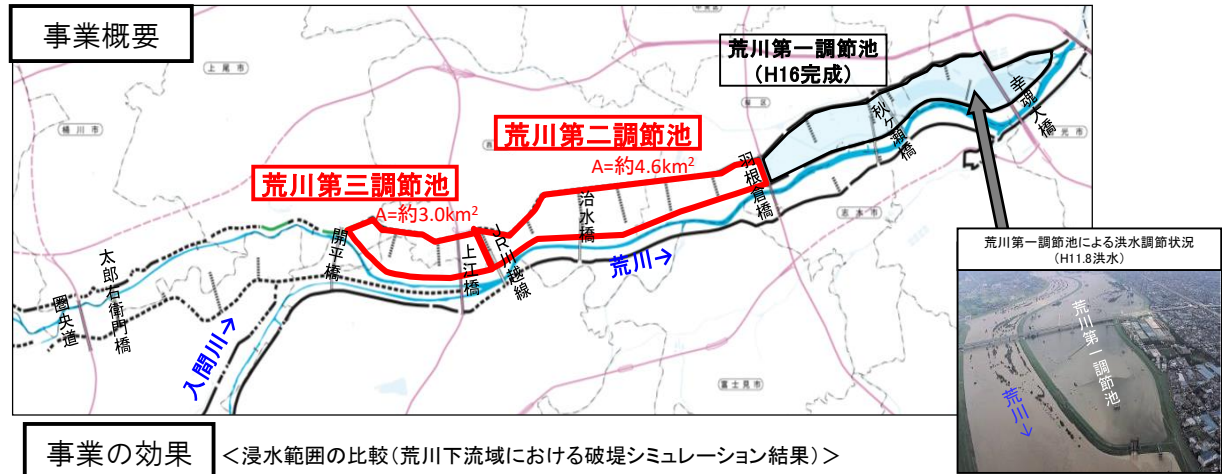


荒川第二・三調節池の事業概要(平成30年度着手)

●荒川流域は、東京都と埼玉県にまたがり、流域内には、日本の人口の約8%が集中しています。

特に埼玉県南部及び東京都区間沿川は人口・資産が高密度に集積している地域となっています。

●荒川の治水安全度向上のための抜本的な対策として、広い高水敷を活用した調節池の整備に着手します。



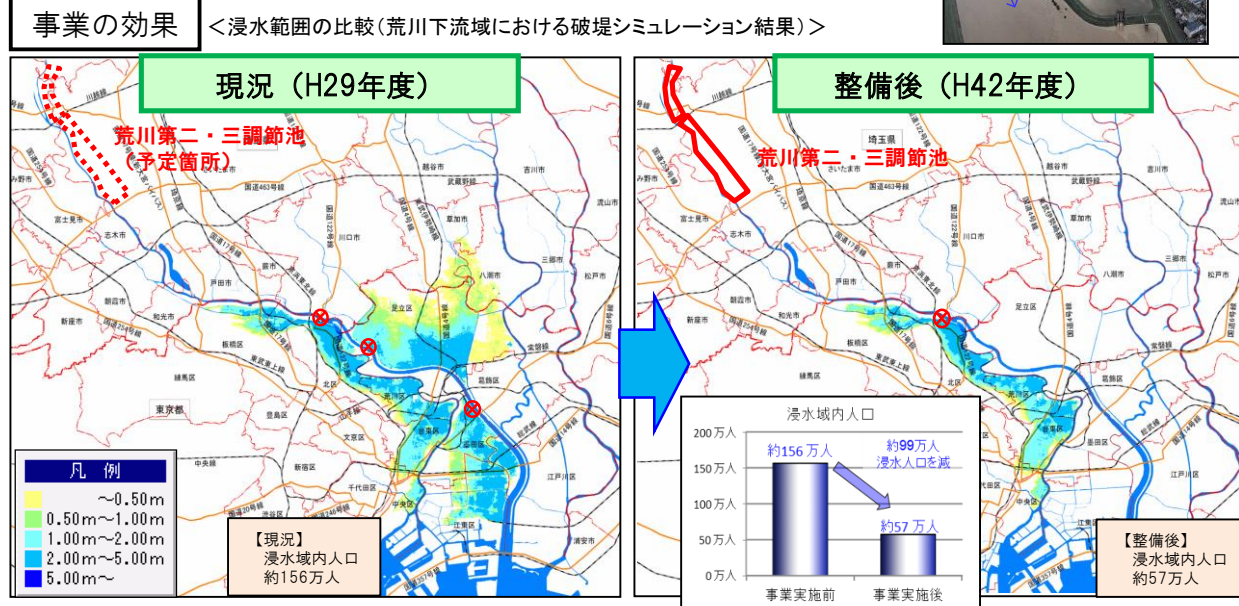
事業の内容

○場所
埼玉県さいたま市、川越市、上尾市

○全体事業費
約1,670億円

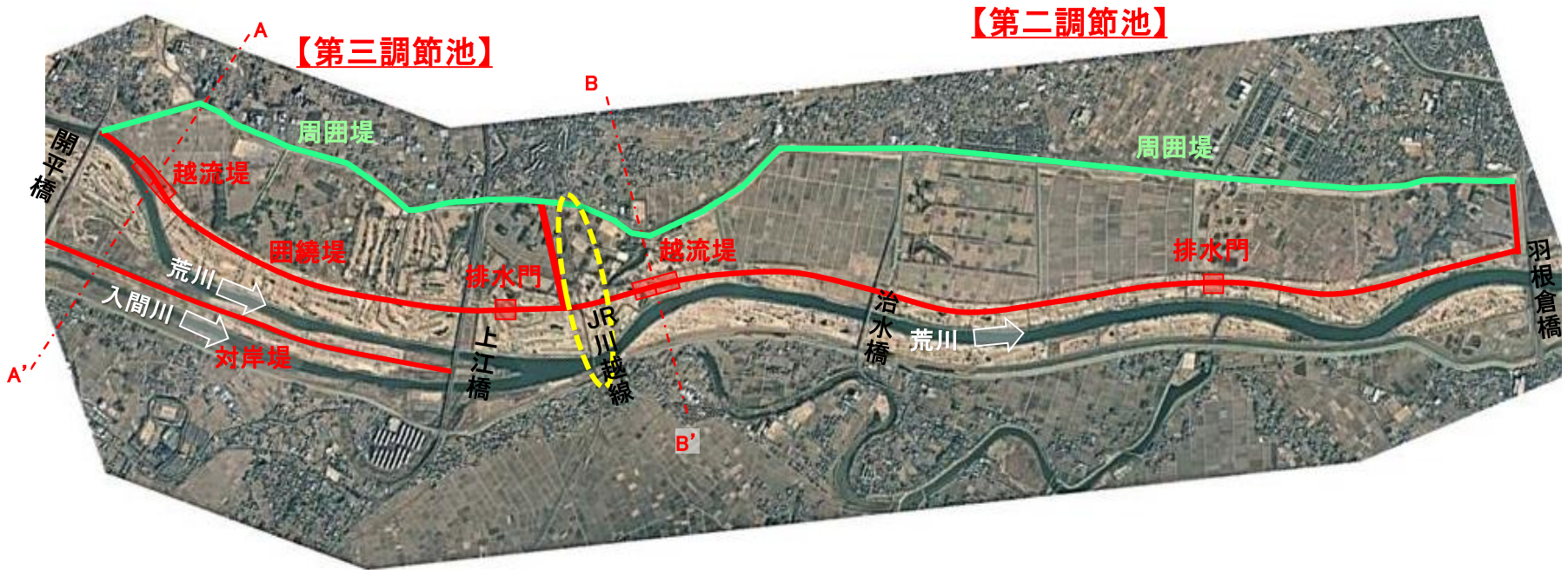
○事業期間
平成30年度～令和12年度（13年間）

○事業内容
荒川第二・三調節池の整備
面積 約760ha（第二：約460ha,第三：約300ha）
治水容量 約5,100万m³
（第二：約3,800万m³,第三：約1,300万m³）

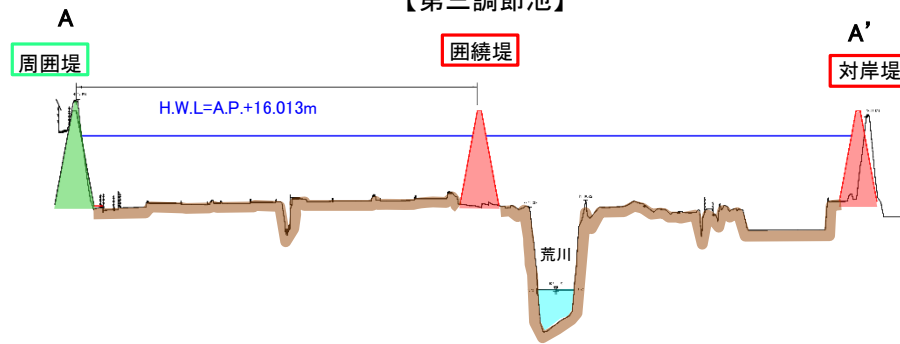


荒川第二・三調節池 事業計画平面図(検討中)

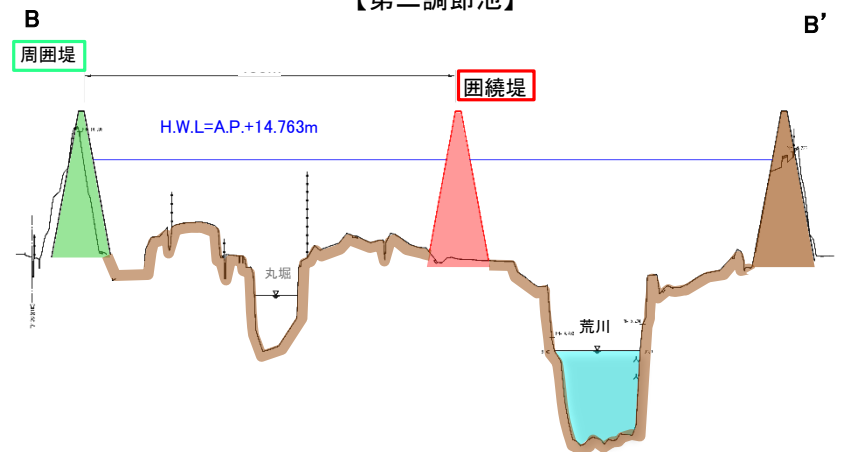
事業概要図



【第三調節池】



【第二調節池】



注) 写真、図中の堤防、越流堤、排水門の詳細は、今後調査、検討を行った上で決定するものであり、表記の位置等は変更する場合がある。

4. 最近の話題

水防災意識社会 再構築ビジョンの取組

「施設の能力には限界があり、
施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生するもの」

■荒川水系(埼玉県域)の減災に係る取組方針 【5年間で達成すべき目標】

荒川水系（埼玉県域）の大規模水害に対し、

「逃げ遅れゼロ」

「社会経済被害の最小化」を目指す。

※逃げ遅れゼロ：避難行動が遅れ、人命にかかわるような逃げ遅れをなくす

※社会経済被害の最小化：大規模水害による社会経済被害を軽減し、早期に経済活動を再開できる状態

ハード対策

・従来のハード対策に加え、氾濫が発生した場合にも被害を軽減する「危険管理型ハード対策」を導入。

ソフト対策

・住民が自らリスクを察知し、主体的に避難できるよう、より実効性のある「住民目線のソフト対策」へと転換。

大雨の際の対応について

<河川管理者>

国土交通省

- ・堤防の巡視
- ・水位情報、カメラ映像の提供
- ・ダム、水門、排水機場の操作
- ・洪水予報、水防警報の発表

<自治体>

市役所

- ・災害備蓄品の確認、準備
- ・ハザードマップ
- ・避難所の開設、準備
- ・避難情報の発表

安心・安全

気象庁

- ・気象情報の解析
- ・大雨、洪水注意報、警報の発表

消防・水防団

- ・堤防の見廻り
- ・水防活動(土のう積み)

逃げ遅れゼロ、被害を最小限にするために私たちができること

■ 予めとるべき行動を確認し、洪水が来る前に安全な場所に避難することが重要です。

タイムラインのイメージ

時間の流れ



避難判断水位【**氾濫警戒情報**】



避難準備情報

氾濫危険水位【**氾濫危険情報**】



避難勧告

氾濫発生【**氾濫発生情報**】



避難指示(緊急)

住民のとるべき行動

情報収集等

- テレビ、ラジオ、インターネット等による**気象警報等の確認**
- ハザードマップ等による**避難所・避難ルート**の確認
- **非常持出し品の準備**
- 家屋の被害を抑えるための**自衛策の実施**
(家のまわりの排水溝の点検、**風で吹きとばされそうな物の収容等**)

様々な情報源から**情報を集めましょう**



避難の準備 高齢者等は避難を開始

避難場所・経路を**確認しましょう**

- テレビ、インターネット、携帯メール等による大雨や河川の状況を確認

避難の実施

足元に気を付けて**落ち着いて避難しましょう**

危険回避行動



※1 氾濫注意情報などの各種情報は、国土交通省と気象庁が共同で発表する情報です。
※2 ※1の情報を目安に市長村長は、住民に対し避難に関する情報を発令します。

自治体へのホットライン

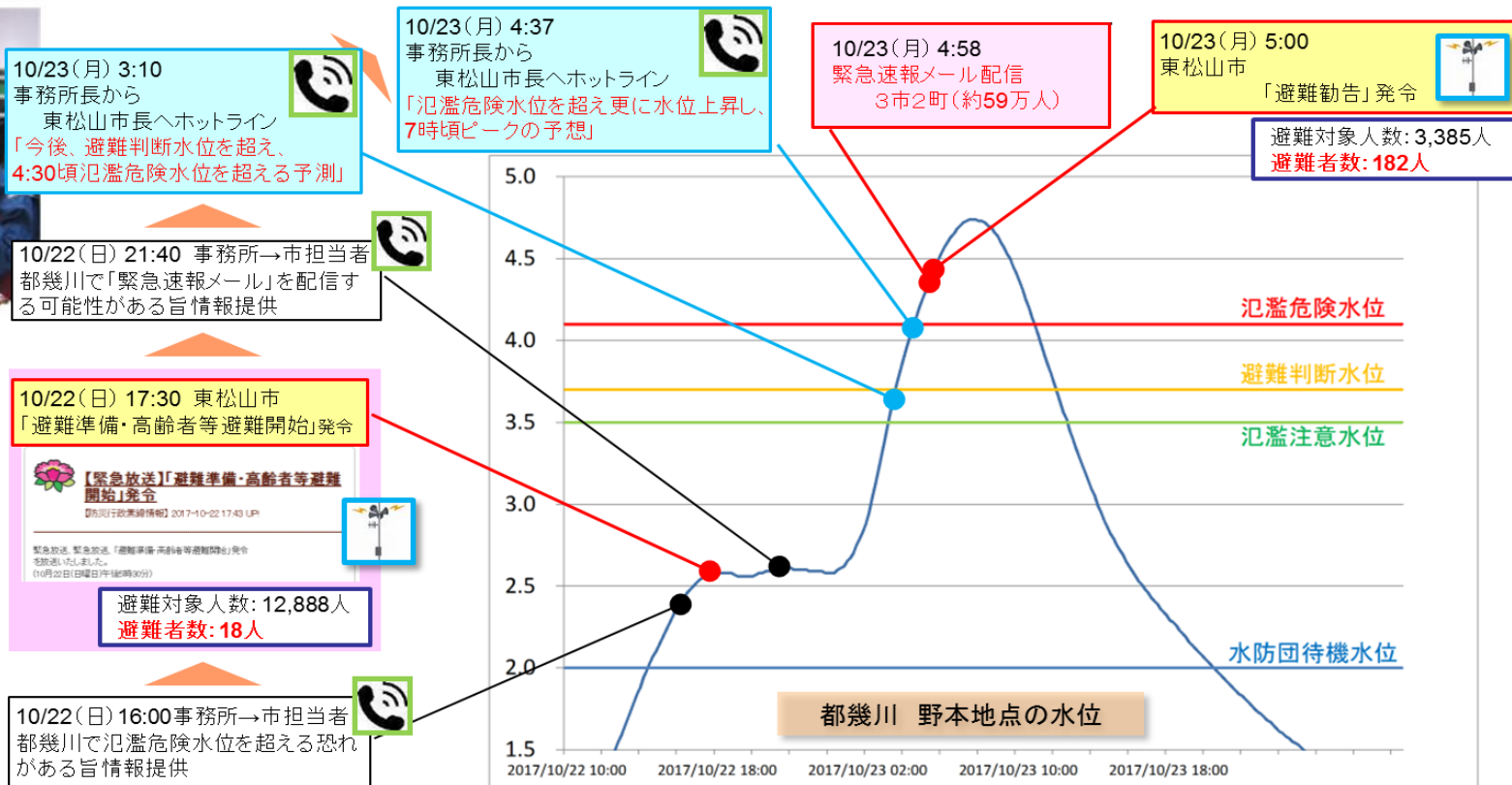
■水防団や地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検【国・県・市町】

「水防災意識社会再構築ビジョン」による減災への取り組みにより、平成29年10月の台風第21号の出水では、円滑な避難勧告等の発令、避難行動に繋がった

- 事前に堤防の低い箇所や水防活動を実施すべき箇所等を**共同点検**
- 避難判断の参考となる洪水情報を**自治体首長へ直接伝達するホットライン**等

荒川水系都幾川(東松山市の事例)

ホットライン



緊急速報メールを活用した洪水情報のプッシュ型配信

～平成29年5月1日から、一部の地域で洪水情報が緊急速報メールで配信されます～

国土交通省では、「水防災意識社会 再構築ビジョン」のもと、流域住民の主体的な避難を促進するため、平成29年5月1日から、国が管理する荒川水系（埼玉県域）において、携帯電話事業者が提供する「緊急速報メール」を活用した洪水情報のプッシュ型配信（以下、「メール配信」という）を開始します。

※ 洪水情報とは、指定河川洪水予報の**氾濫危険情報(レベル4)**及び**氾濫発生情報(レベル5)**の発表を契機として、流域住民の主体的な避難を促進するために配信する情報です。



洪水情報のプッシュ型配信イメージ

河川氾濫のおそれ 警戒レベル4相当
 こちらは国土交通省関東地方整備局です
 内容：荒川の治水橋（さいたま市西区）付近で水位が上昇し、避難勧告等の目安となる氾濫危険水位に到達しました
 行動要請：防災無線、テレビ等で自治体の情報を確認し、各自安全確保を図るなど適切な防災行動をとってください
 本通知は、浸水のおそれのある市区町村に配信しており、対象地域周辺でも受信する場合があります（国土交通省）

※今回のメール配信は、国土交通省が発信元となり、携帯電話事業者が提供する「緊急速報メール」のサービスを活用して洪水情報を携帯電話ユーザーへ周知するものであり、水害時に流域住民の主体的な避難を促進する取組みとして国土交通省が実施するものです。

緊急速報メール配信先

1 開始日 平成29年5月1日（月）（下線：平成30年5月1日（火）から追加）

2 対象河川・配信先

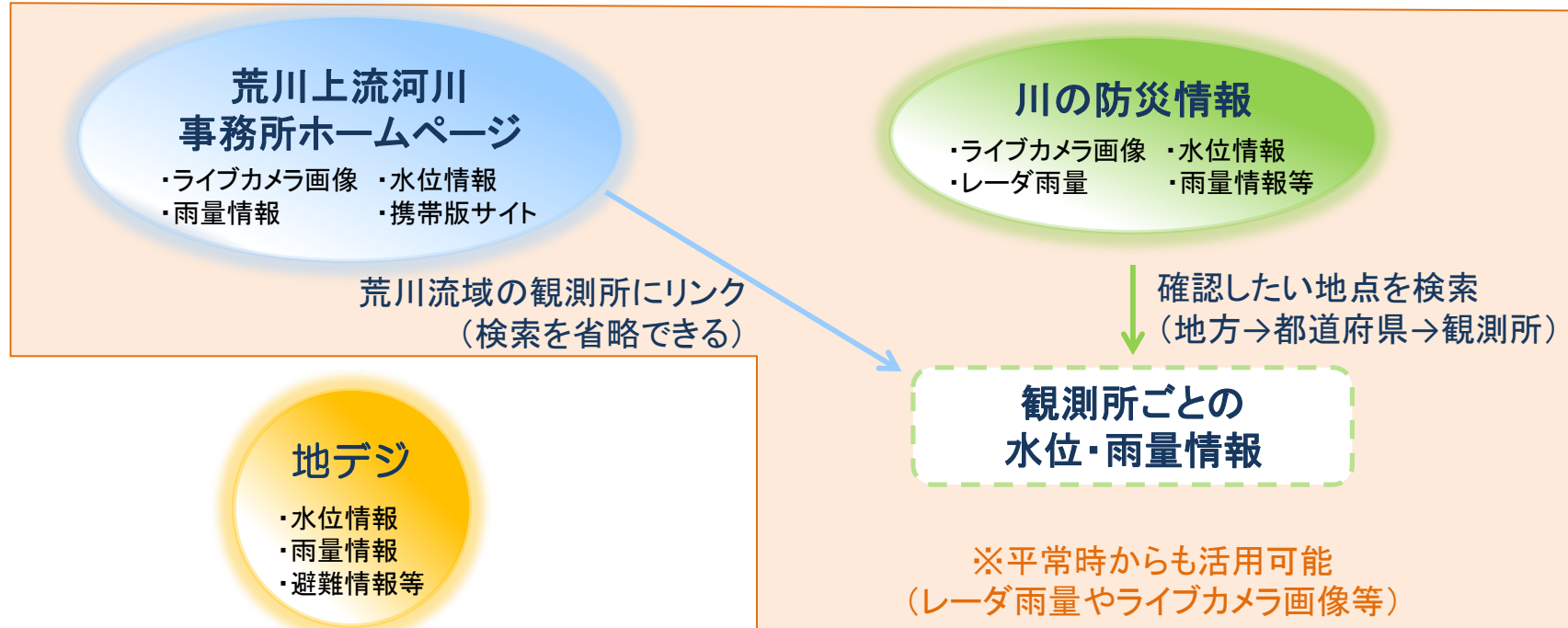
対象河川	基準観測所	受持区間※	配信先
荒川	熊谷観測所 (熊谷市)	左岸:深谷市荒川から上尾市平方 右岸:寄居町赤浜から川越市中老袋	埼玉県 さいたま市西区、北区、大宮区、見沼区、中央区、桜区、南区、緑区、岩槻区、熊谷市、行田市、加須市、東松山市、春日部市、羽生市、鴻巣市、深谷市、上尾市、越谷市、桶川市、久喜市、北本市、八潮市、三郷市、蓮田市、坂戸市、幸手市、吉川市、白岡市、伊奈町、川島町、吉見町、寄居町、宮代町、杉戸町、松伏町 東京都 足立区
荒川	治水橋水位観測所 (さいたま市西区)	左岸:上尾市平方から戸田市早瀬1丁目 右岸:川越市中老袋から板橋区三園2丁目	埼玉県 さいたま市西区、北区、大宮区、見沼区、中央区、桜区、浦和区、南区、緑区、川越市、川口市、上尾市、蕨市、戸田市、朝霞市、志木市、和光市、新座市、富士見市、ふじみ野市、三芳町 東京都 千代田区、台東区、北区、荒川区、板橋区、足立区
入間川	菅間観測所 (川越市)	左岸:川島町角泉から荒川合流点 右岸:川越市府川から荒川合流点	埼玉県 さいたま市西区、川越市、富士見市、坂戸市、ふじみ野市、川島町 東京都 北区、板橋区
入間川	小ヶ谷観測所 (川越市)	左岸:川越市的場から川島町角泉 右岸:川越市池辺から川越市府川	さいたま市西区、川越市、富士見市、坂戸市、ふじみ野市
越辺川	入西観測所 (坂戸市)	左岸:鳩山町赤沼から入間川合流点 右岸:毛呂山町苦林から入間川合流点	川越市、東松山市、坂戸市、毛呂山町、川島町、吉見町、鳩山町
小畔川	八幡橋観測所 (川越市)	左岸:川越市吉田から越辺川合流点 右岸:川越市吉田から越辺川合流点	川越市、坂戸市
都幾川	野本観測所 (東松山市)	左岸:東松山市石橋から越辺川合流点 右岸:東松山市下唐子から越辺川合流点	川越市、東松山市、坂戸市、川島町、吉見町
高麗川	坂戸観測所 (坂戸市)	左岸:坂戸市森戸から越辺川合流点 右岸:坂戸市森戸から越辺川合流点	川越市、坂戸市、毛呂山町

※1) 受持区間とは、各々の水位観測所が受け持つ予報区域のこと

水位・雨量等に関するリアルタイム情報

- インターネットやテレビを通じて、リアルタイムの水位・雨量の情報を確認できます。
- 荒川上流河川事務所ホームページでは、ライブカメラ画像を確認することができます。また、水位・雨量については、「川の防災情報」の荒川流域の観測所にリンクしており、スムーズにリアルタイムの状況を確認することができます。

【洪水時のリアルタイム情報】



水位・雨量に関するリアルタイム情報

「川の防災情報」から水位・雨量等に関する情報を見ることができます。

国土交通省 関東地方整備局
荒川上流河川事務所

荒川上流河川事務所ホーム > リアルタイム情報

リアルタイム情報

→ **ライブカメラ** クリック

→ **水位**
ご覧になりたい観測所名をクリックして下さい。※国土交通省河川局 川の防災情報にリンクしています。

→ **雨量**
ご覧になりたい観測所を観測所一覧から選択しクリックして下さい。※国土交通省河川局 川の防災情報にリンクしています。

国土交通省 川の防災情報

水位観測所付近の川の断面図

観測所: 治水橋(びすいばし)

水系名	河川名	管理者	位置	所在地	水位標のゼロ点高	雨量観測所
荒川	荒川	国交省 荒川上流河川事務所	右岸41.89km	埼玉県さいたま市西区飯田新田(治水橋)	-1.4m	小鷹野

水位に「水位標のゼロ点高」を加えると水面の標高になります。

水位観測所付近の川の断面図

14:20の水位: 4.0m ⇨ 変化なし

水位標のゼロ点高 -1.4m(標高)

はん濫危険水位 12.60m
河川がはん濫するおそれのある水位

避難半断水位 12.10m
避難情報発表の目安となる水位

はん濫注意水位 7.50m
河川がはん濫の発生を注意する水位

水防団待機水位 7.00m
水防団が待機する目安となる水位

危険水位と現在の水位の関係を確認できる

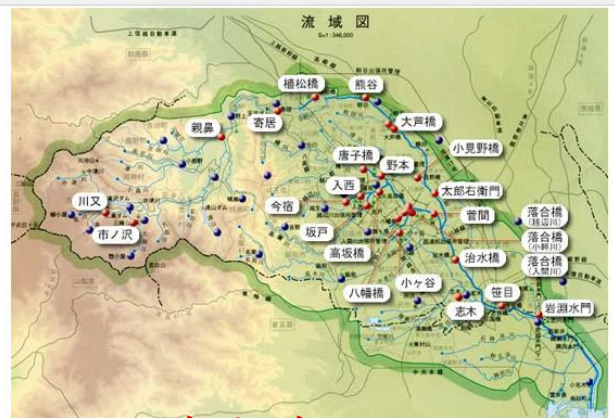
※縦・横の縮尺が異なります。
※水位標の値と水位標のゼロ点高は、小数点以下第二位を四捨五入して表記しています。

水予報と水位の関係について
Compiled by FRICS

水位

ご覧になりたい観測所名をクリックして下さい。
※国土交通省河川局 川の防災情報にリンクしています。

観測所位置図



- 観測所名から探す クリック
- 川又(かわまた) [外部サイト]
 - 親鳥(おやばな) [外部サイト]
 - 市ノ沢(いちのさわ) [外部サイト]
 - 今宿(いまじゅく) [外部サイト]
 - 入西(いっさい) [外部サイト]
 - 越辺川落合橋(おっべがわおちあいばし) [外部サイト]
 - 高坂橋(たかさかばし) [外部サイト]
 - 雲居(よりの) [外部サイト]

荒川上流河川事務所ホームページ:
<http://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/>

水位・カメラ映像に関するリアルタイム情報

・ 水位計ライブカメラ等の情報提供の拡充

- 荒川上流河川事務所HPでのCCTVカメラ画像の拡充
平成29年4月より これまでの**19箇所**から**27箇所**へ**拡大**
- 樋管等直轄河川管理施設の内外水位の提供
平成29年4月より提供開始(管理者用)
- 危険箇所への危機管理型水位計の設置

国土交通省 関東地方整備局
荒川上流河川事務所 **100** 周年
ライブカメラサイト

荒川上流河川事務所ホーム > リアルタイム情報 > ライブカメラ

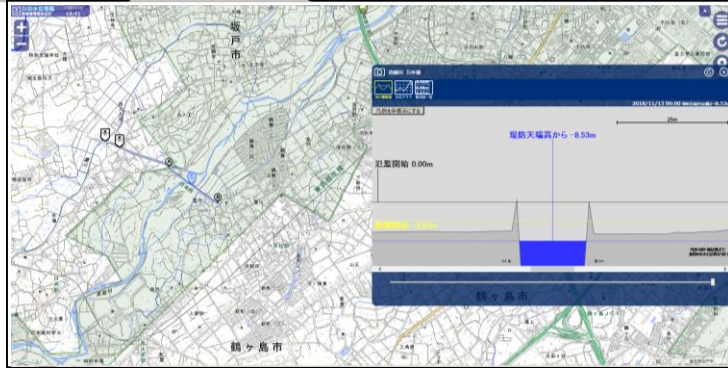
リアルタイム情報

ライブカメラ

荒川	入間川	その他
南煙水質観測所	入間大橋	市野川・神明堰
治水橋	菅間水位観測所	小畔川・とげ橋
JR川越線	小ヶ谷水位観測所	小畔川・八幡橋
上江橋	初雁橋	高麗川・坂戸水位観測所
武蔵水路合流点		都幾川・野本水位観測所
大芦橋		都幾川・東松山橋
荒川大橋		九十九川・九十九川合流点
笹目橋		葛川・葛川合流点
羽根倉橋		綾辺川・入西水位観測所
久下橋		高麗川・高麗川橋
瓶谷大橋		
植松橋		
寄居水位観測所		

CCTVカメラの情報提供の拡充

危機管理型水位計の写真
(上段:接触型、下段:非接触型)

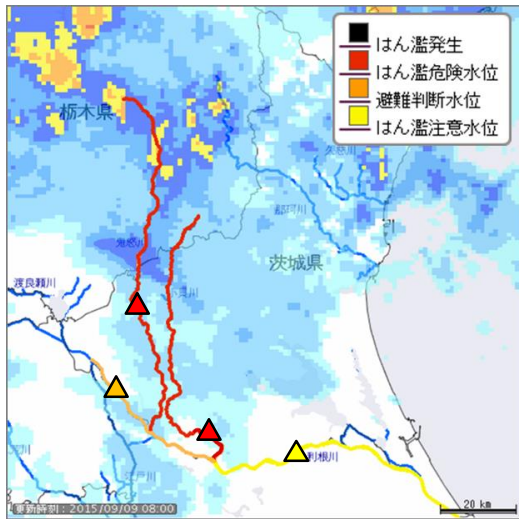


水害リスクラインによる水位情報の提供

上流から下流まで連続的に、地先毎の洪水危険度を把握・表示する「水害リスクライン」により、災害の切迫感をわかりやすく伝える取組を推進

現行の洪水予報・危険度の表示

水位観測所の水位で代表して、一連区間の危険度を表示



水害リスクラインを活用した洪水予報・危険度の表示

左右岸別、上下流連続的に地先ごとの危険度を表示



・水害リスクライン
<https://frr.river.go.jp/>

洪水浸水想定区域に関する情報

- 荒川水系洪水浸水想定区域図(PDF版)は国土交通省関東地方整備局**荒川上流河川事務所**の**ホームページ**にて索引・ダウンロードができます。洪水浸水想定区域図(**電子地図版**)についても荒川上流河川事務所ホームページにて公開予定となっています。
- また、破堤点ごとの時系列浸水区域図は国土交通省が公表する「**地点別浸水シミュレーション検索システム(浸水ナビ)**」より詳細確認ができます。

「地点別浸水シミュレーション検索システム」

指定地・指定者・河川・破堤点ごとの時系列浸水区域図を、指定地指定者・浸水想定者・河川の水位情報者から検索・ダウンロードすることができます。

指定地指定者

浸水想定者

河川の水位情報者

地点別浸水シミュレーション検索システムを見る

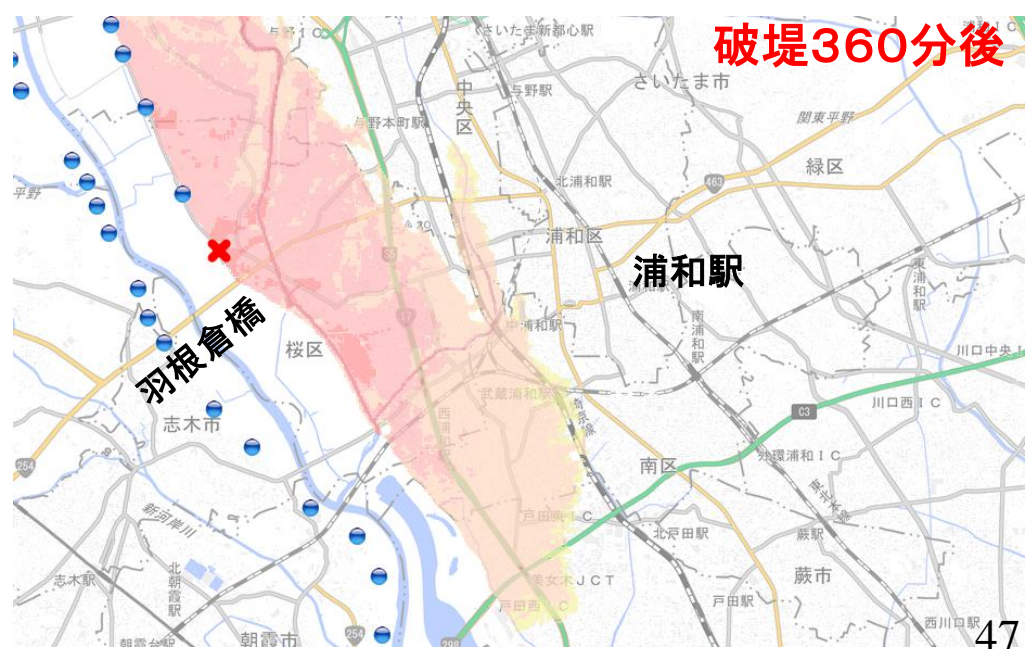
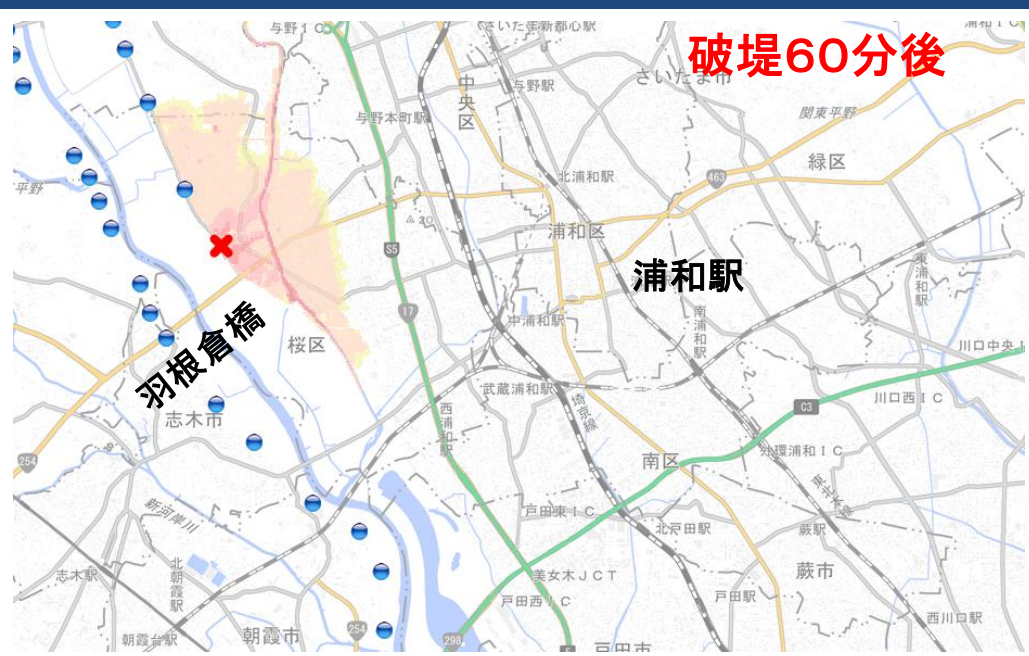
・浸水ナビ検索画面の一例

・浸水ナビ検索画面の一例

・地点別浸水シミュレーション検索システム(浸水ナビ)
<http://suiboumap.gsi.go.jp/>

・洪水浸水想定区域図(PDF版)
http://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/arajo_index038.html

洪水浸水想定区域に関する情報(浸水ナビ)



浸水ランク

0.0m ~ 0.5m未満
0.5m ~ 3.0m未満
3.0m ~ 5.0m未満
5.0m ~ 10.0m未満

洪水浸水想定区域に関する情報

■国管理河川が破堤した場合の洪水浸水想定区域図(荒川上流 HP)

The screenshot shows a web browser window displaying the homepage of the Arakawa River Office. The page is titled "国管理河川が破堤した場合の洪水浸水想定区域図(荒川上流 HP)". The main content area is divided into several sections:

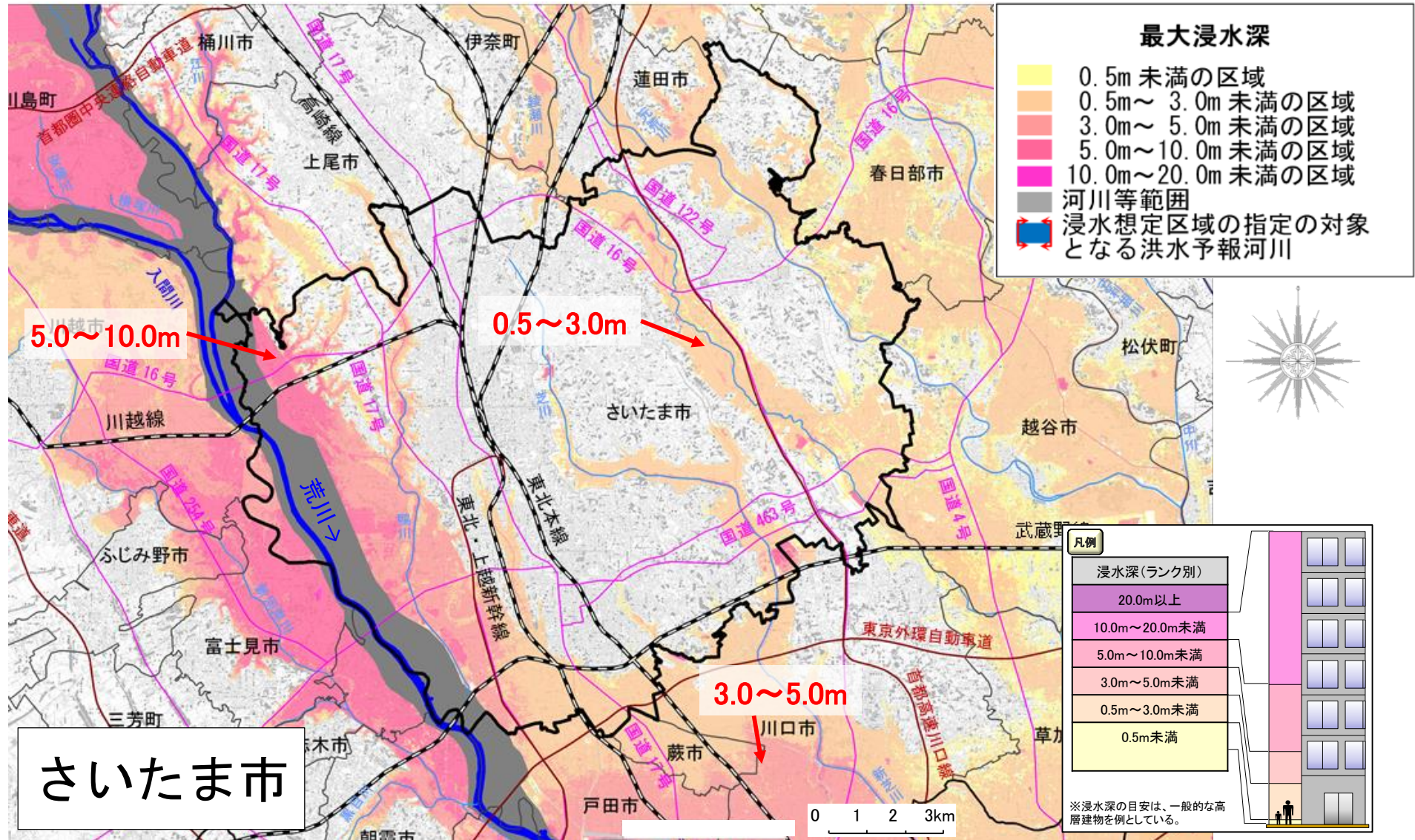
- 最新のお知らせ (平成30年11月06日更新)**: A list of recent notices, including an event on November 8th and a tree planting activity on November 1st.
- 最新記者発表資料 (平成30年10月31日更新)**: A list of press releases, including one about flood prevention measures on October 31st and another about illegal waste disposal on October 17th.
- 注目情報**: A section highlighting key information, including a link to the "荒川水系洪水浸水想定区域" (Arakawa River Basin Flood Inundation Designated Area) map, which is circled in red. The text below the link states that the designated area was revised on May 15, 2018, based on the latest rainfall data, and that the map is available for download.

The right sidebar contains a navigation menu with links to various sections such as "防災情報" (Disaster Information), "リアルタイム情報" (Real-time Information), "発注・入札情報" (Bidding Information), and "お問い合わせ" (Contact Us). The footer of the page displays the system date and time: "2018/11/08 9:46".

洪水浸水想定区域に関する情報

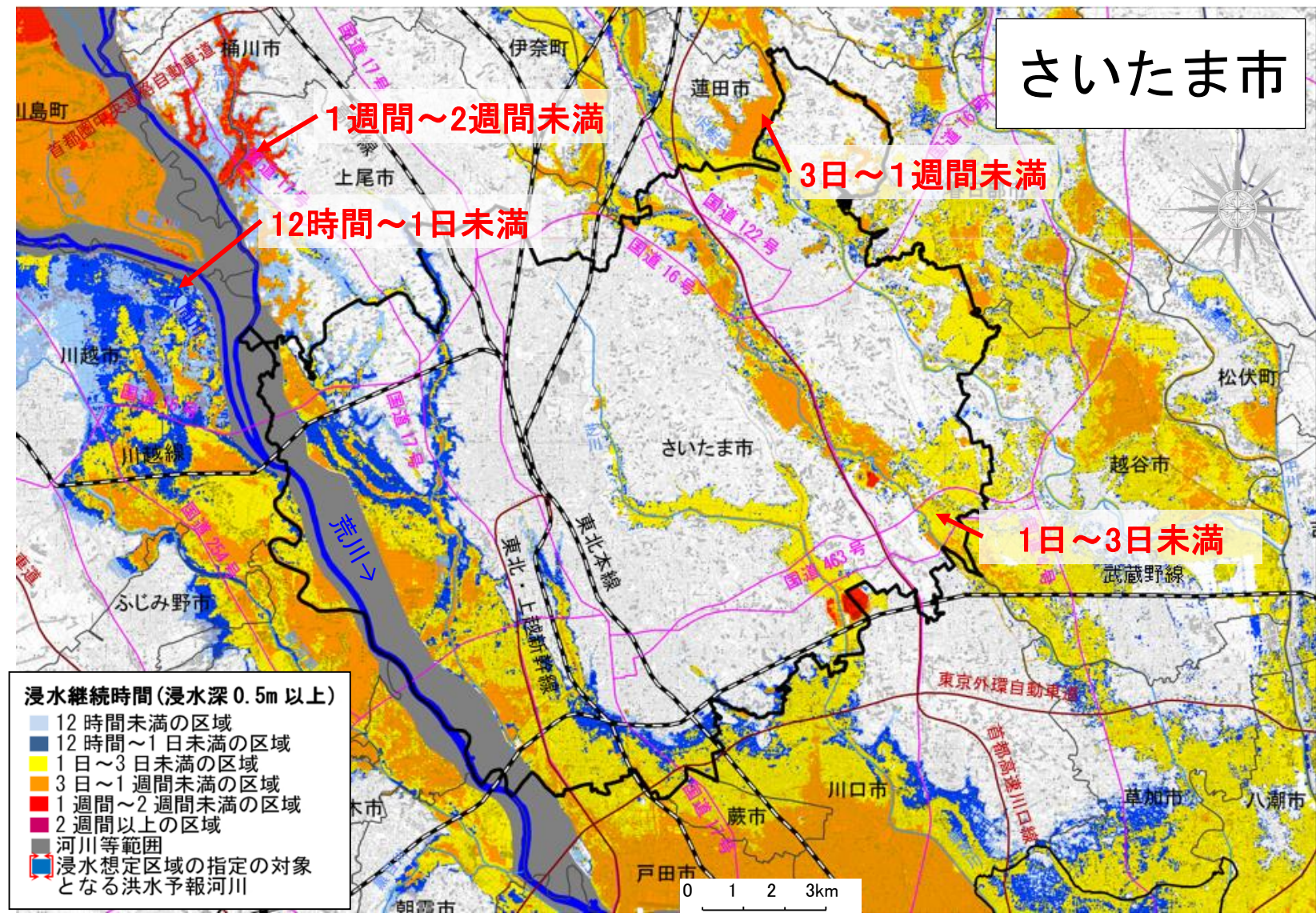
荒川水系荒川及び入間川流域 洪水浸水想定区域(想定最大規模)

荒川流域 : 632mm/3日間
入間川流域 : 740mm/3日間



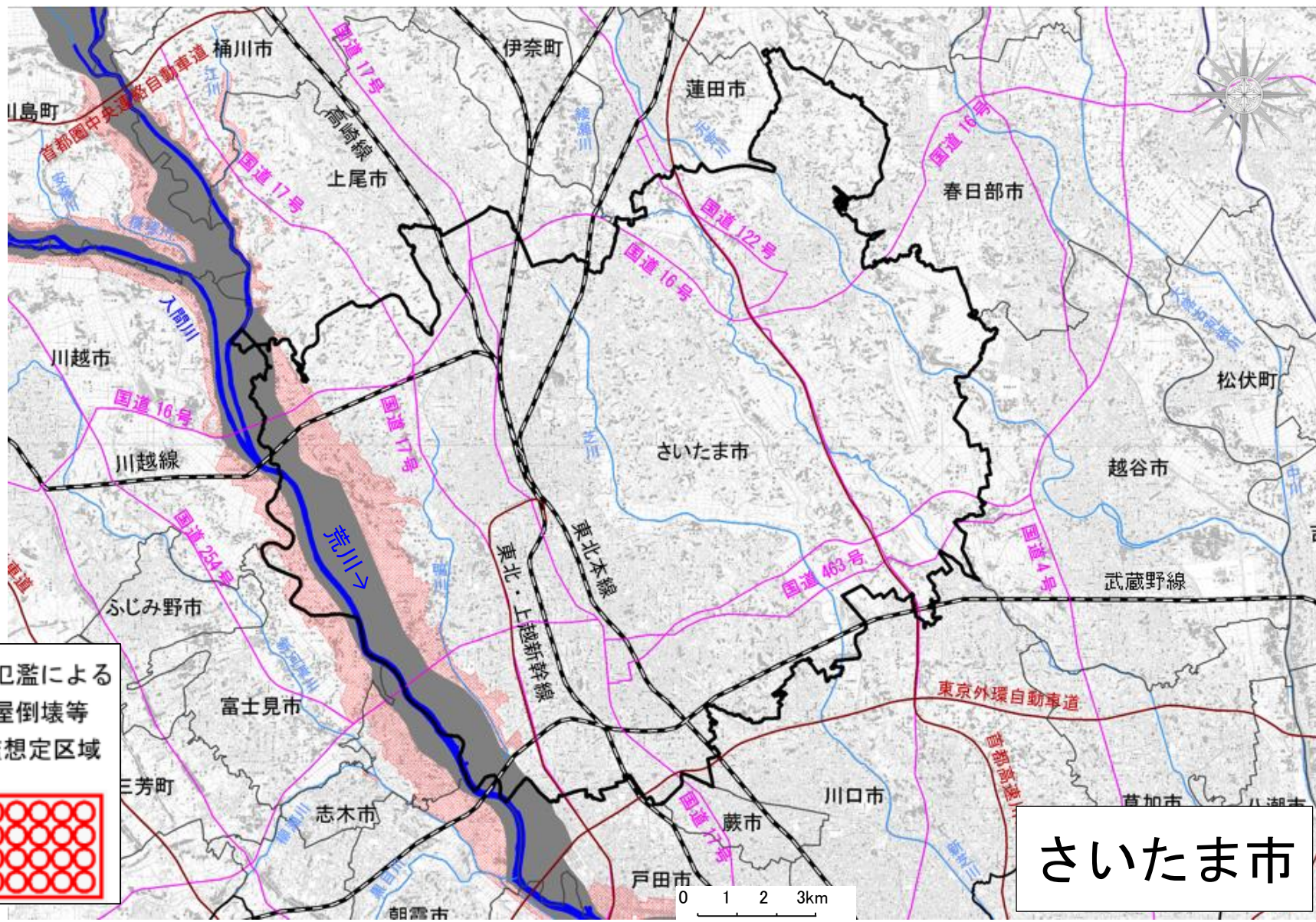
洪水浸水想定区域に関する情報

荒川水系荒川及び入間川流域 洪水浸水想定区域

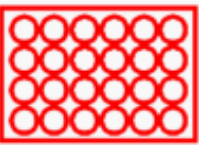


洪水浸水想定区域に関する情報

荒川水系荒川及び入間川流域 洪水浸水想定区域(家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流))



洪水氾濫による
家屋倒壊等
氾濫想定区域



さいたま市

お わ り

ご静聴ありがとうございました。